



月刊 もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

2022年9月1日 第118号 第三版

www.abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

「だが、そうすると、ビートルズのことは一体どう考えればいいのだろう。ビートルズこそ、ミリタリー・ルックの元祖だという説もあり、日本ではミリタリー・ルックの息の根を止めたというツイッギーが、あっけなく消え去った今もなお、ビートルズの名はいぜんとして健在なままなのだ。

たとえばSGT. PEPPER'S LONELY HEARTS CLUB BANDというレコードにしても、題名はもちろん、そのジャケットまでが、まさにミリタリー・ルックそのものである。

(「ミリタリー・ルック」(『内なる辺境』：全集第22巻、134ページ下段)



目次

- 1 目次…page 2
 - 2 記録&ニュース&掲示板…page 3
 - 3 巻頭詩（6）：万葉集巻一・二十八：持統天皇…page 8
 - 4 全集未収録作品：シナリオ『億萬長者』生原稿 分載（4/4）映画評論1954.8月号：安部公房他…page 9
 - 5 『周辺飛行』論（29）：3。『周辺飛行』について（21）：「贗魚」改訂版——周辺飛行26：岩田英哉…page 19
 - 6 山本健吉の安部公房作品論～『壁』から『燃えつきた地図』まで～：岩田英哉…page 22
 - 7 『砂漠の思想』を読む（5）：裁かれる記録係：岩田英哉…page 31
 - 8 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（1）：塔の文学：森鷗外の塔と夏目漱石の塔：岩田英哉…page 38
 - 9 サンチョ・パンサを求めて（10）：Black Lives Matterとは何か：岩田英哉…page 49
 - 10 ネット・メディア論（10）：6.4.3 同調圧力とconformityと空気の関係：待て次号：岩田英哉…page 57
 - 11 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（9）：5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか：岩田英哉…page 65
 - 12 Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界」シリーズ（10）：扇～性と古代信仰～：待て次号：岩田英哉…page 67
 - 13 編集後記…page 68
- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 66
- ・編集方針…page 69

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

ニュース&記録&掲示板

The best tweets of the month



LIB@LIBxxxxx0・Jul 12

虐殺器官で理不尽なものは全部カフカだって言ってたウィリアムズに教えてあげたい安部公房



伊藤伸治@shinji1045・Jul 12

安部公房を読みたい。

どくだみ@ove_xxx・Jul 11

安部公房最初に読んだときこんなに出されたら文章書く仕事したい人心おれますやん…って思ったけど米津玄師もそんなかんじ
暴力的な才能

今月の砂の女

仏人との会話のご紹介

仏「ボク、日本のコボ・アベの小説読んだよ」

私「は？誰それ？」

仏「あれ、知らないの？日本の有名作家でしょ」

私「え？なんていうタイトル？」

仏「The Woman in the Dunes」

私「？？？内容教えて！」

仏「女が砂の中に住んでて…」

私「あ！安部公房の砂の女か！」

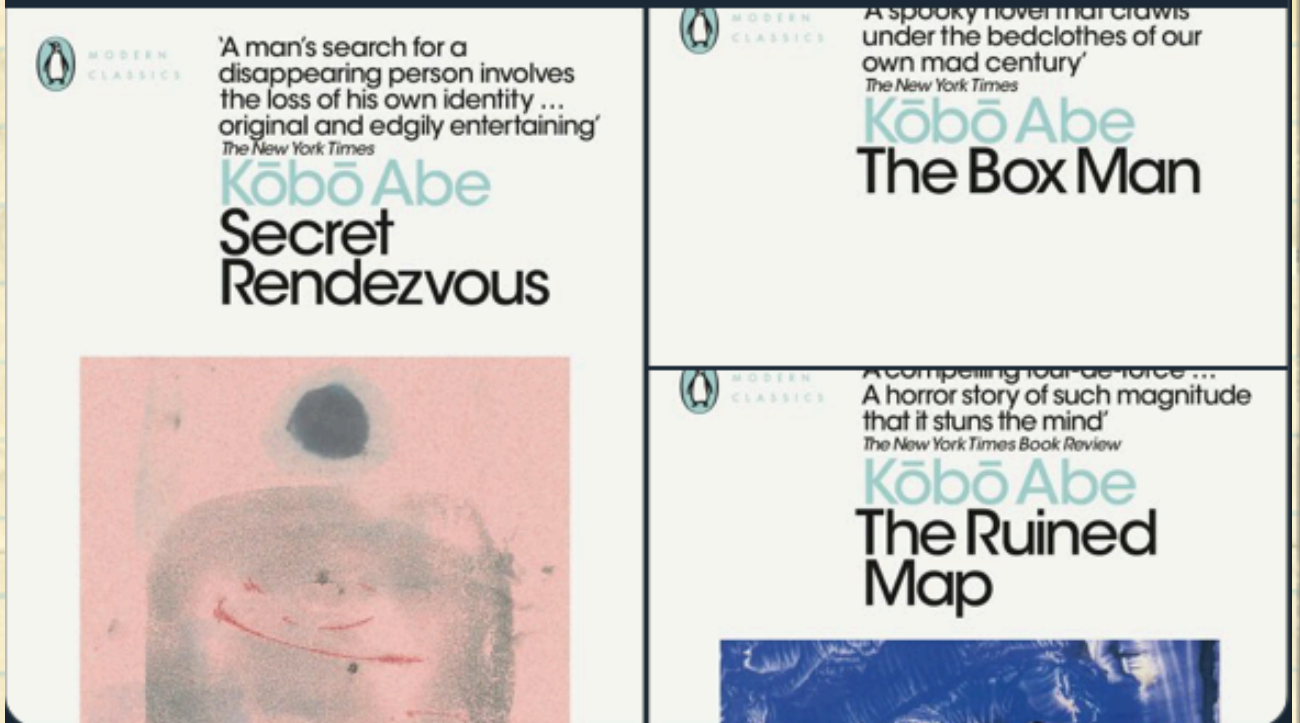
Kunio Shin 秦 邦生@KunioShin・Jul 14

安部公房の小説翻訳三作品が10月にペンギン・モダン・クラシックスからペーパーバックで刊行予定とか。英語圏で人気なんですねえ。シュールなカバーアートも素敵。

 **Corina Romonti** @corinaromonti · Jul 14

Any Kobo Abe fans around? We're publishing some of his weird and wonderful novels in Penguin Modern Classics this October. Look at those perfectly surreal covers 🤪

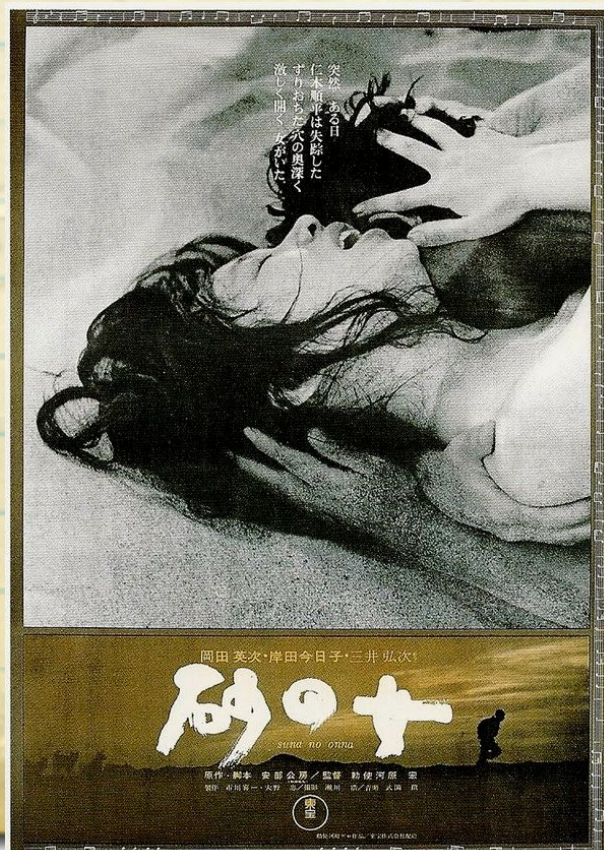
[Show this thread](#)



tanitaniotosan@tanitaniotosan · Jul 17

#砂の女 (1964)

原作同様大の傑作。数十年ぶりに鑑賞。未だ衝撃は微塵も薄れていない。私の血液にどくどく流れ続ける作品。原作も久しぶりに読もうぞ。★★★★☆#安部公房 # 勅使河原宏 #岸田今日子



柴田望@NOGUCHIS7・Jul 16

■旭川開村130年記念企画展示「安部公房 ～人と作品～」

<https://fragile-seiga.hatenablog.com/entry/2020/07/16/134105>



■旭川開村130年記念企画展示「安部公房 ～人と作品～」 - 詩誌『フラ...
(ある期間に起きたこと...) ・旭川開村130年記念企画展示「安部公房 ～
人と作品～」が旭川市中央図書館で4月1日から開かれております。旭川市...
📍 fragile-seiga.hatenablog.com

ふく@低所得B@keena_fuku・Jul 13

安部公房みがある



佛淵和哉 (ほとけ) @axelnor・18h

演出としては清水邦夫の『朝に死す』を上演したばかりだけど、俳優として古典に挑むのはあうるすぽっとでやった安部公房の『愛の眼鏡は色ガラス』ぶりだ。楽しみ。頑張ろう (サイコ笑顔)



今月のデンドロカカリヤ論

ルコックスボルティ@lecoqs808・Jul 12

安部公房「デンドロカカリヤ」における「顔」と「植物病」

https://42286268.at.webry.info/201502/article_6.html



今月の安部公房論

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku・Jul 12

仮面-コミュニケーションの壁--安部公房の作品から (仮面<特集>)

<https://ci.nii.ac.jp/naid/40002021137>

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku・Jul 11

安部公房『他人の顔』論：自己疎外と加工された顔

<https://ci.nii.ac.jp/naid/120005942791>

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku・Jul 11

所有の始原：安部公房「赤い繭」論

<https://ci.nii.ac.jp/naid/110007506049>

今月のヤマザキマリ

ヤマザキマリ (Mari Yamazaki) 公式 情報用アカウント@THERMARI1・Jul 1

数ある安部公房作品の中でもおそらく読み返した数が最も多い作品「けものたちは故郷を目指す」について。今年3月に岩波文庫より復刊されております。「今だからこそ読む、安部公房」：

<https://tanemaki.iwanami.co.jp/posts/3774#kanto>

岩波書店promotion @IwnmPromotion · Jul 1

～web岩波 たねをまく～

「図書」7月号を掲載しました。

【試し読み】

・ヤマザキマリ「今だからこそ読む、安部公房」

・岡村幸宣「静かな春と〈作業日誌〉」

・金平茂紀「『孤堡』からバトンを受け取る」

tanemaki.iwanami.co.jp/posts/3774

もぐら通信訂正版連絡：

もぐら通信第117号（第三版）を発行しました。訂正箇所は次の通りです。ダウンロードは：<https://docdro.id/BtAiz10>

表紙：

(1) 訂正前：2020年7月1日 第116号 第二版

(2) 訂正後：2020年8月1日 第117号 第三版

P25：

(1) 訂正前：この舞台の後世

(2) 訂正後：この舞台の構成

P50：

(1) 改定前：United Nations of India：UNI が抜けてみた

(2) 改定後：(2) United Nations of India：UNI を挿入した。

P50：

(1) 改定前：その他の第三国群 が、2の項番に含まれてみた。

(2) 改定後：その他の第三国群 を、2の項番の外に出して第三番目の項目として独立させ、世界情勢の全体が解りやすいようにした。

P51：

(1) 改定前：世界各地の国内で戦争(war)・戦闘(battle)・市街戦(combat・fight)が戦はれる

(2) 改定後：世界各地の国内で戦争(war)・戦闘(battle)・市街戦(combat)・殴り合ひ/白兵戦 (fight)が戦はれる としました。

卷頭詩

(6)

万葉集卷一・二十八

持統天皇

春過而夏来良之白栲能衣乾有天之香来山

春過ぎて 夏来たるらし 白栲たへの衣ほしたり 天の香具山

全集未収録作品

シナリオ

『億萬長者』

分載 (4/4)

安部公房 他

5-10

げようというのだし、しかも無料で立退かせてあげるのだから」

館 「それは、ソウ」

チンと鈴が鳴りタテ尻餅をつく

59 高台の小屋 タ暮

金の束を三則にして頭を抱え込ん

る館、

ゴロッケの山を前にしてモグモグ

やっている車。

館 「よしッ こうなった以上 方法は一つしかない、つまり

あゝやつて こうやつて 何でもかんでも 大きく出る

ことだ」

車 「ゴロッケ三十万なんて、こんなこと昔の仲間にはち

よっと云え^やえな なり殺されちゃうぜ」

館 「大夫人にしてじんそく、これが億萬長者にな

るや二則だ」

車 「ゴロッケ三十万か、一度おふくろにこれくらいくわ

せてやりたかったな」

戸か開いて、田と秘書が入ってくる。

田 「君達困るじやないか、さあすぐに出て行ってく

れ、明日から材料を運び込むんだぞ」

館 「いえ、そうですとも、私もそのつもりで、こ

ゝを番をしておりましたので……。もしその材

木に放射^線が^能ついていたりしたら大変です。私

共田さんにはすっかりお世話になったんですか

5-11

田 「らせめて見張り位には役に立ちたいとい
「何？見張りなんぞ私の方百人をやとう。私だ
つてちゃんと道具をもっているんだから。」

とりたしてオモチャのボタンを押す、
カチ／＼となり出す、

田 キョーンとして後すたる。

田 「こりや どうぞ
「慌て、自分の分をとり出し」「そら、なりませんよ、
私のはなりませんよ、きつと先生のはこわれぬんで
すよ、どらちよつとかしてごらんささい……。」

ふん、なるほどこわれている、こいつはいかん……。これは
先生こわれやすい機械なんですよ、三日に一度は新
しいのととりかえた方がいゝ位なんだ、とにかく私ども
の工場も小さい方なので、どうにも製産がおいつき
ません……誰かしっかりした 融資者がおれば大し
たもんなんだかなあ

田 (ちよつと心をうごかされた様を)「工場とはどこ」
「ハア、ついでこの近くで、」

田 (気を直して)「ちや見せてもらおうか」
「そいつは困ります。重役以外にはおみせ出来ない
ことになつていゝんです。」

田 「ふんふん」
「仕方がないや、引越そう……、まア先生はその
こわれた機械で御自由におしらせ下さい。」

田 「まア ちよつと待ってくれ」
「いやもう結構。」

50

5-12

田 「まア」
60 街

こらまをくはっている車
これと受取って行く男
男、こらまを見てキョーンとして

51

61

料理屋

田と館と車

館

「そうだとおも、昔は金
持は犬をかかったものだ、
現代では放射能検査技
師を明番におかすけれ
ばとても大人物とはい
えません……。そで
びす先生、私達を明番
にして下さいな。本格
的に工場がうごき出す
までお宅と工場の連絡

にも便利だし、吾々は適
任ですよ、もっとも先生
おねがいがあるせひと
もきいしく取扱って
いただきたいもんですよ、
つまり犬はときどきな
ぐらなけりゃいけない。
いつおいくつか睡眠不
足がやなくちやいけない
い、喰物はなるべく少
くして、栄養は悪い方
がいい最も死ぬ程がや
いけません。(車をふり

十三行

CRINA

62

「あいて）なあ……。車、うなづく、田もうな
づいて、

田「やあ君達なかなかい傾向

館「昨日は、政府の補助がま
るまで私達二人して明番に
していただきまますよ」

田「いやとにかく面白い人達に会った
ものだよ」

車「そうだとおも、あの谷内には愉快な
んがーばい住んでいますよ……。あの

「そうぎやの二階だつて、うちの工場な
んですがね(田はっとした表情)あす
この娘なんぞ、え、本業は原子バク
ダンを作ってるんぢすよ」

田「フシツ

ぬ丘の上に立つた小さな木造家屋

放射能研究所の新しい看板

63 庭に面した一室

館「いつも有難うございます。万事社
長さんの名譽と心得えて誠に誠

特選龍宮 十三巻

67

意は躍いたします。そこでもし
 何がありました場合、一つは
 とも四割金としたりたことだ
 たいのです。いかがです。早速
 四割金をもうけて頂きます。何
 事も規律がつかうな。

田 大きくうなづく。

館 「所が先生、工場の方の資金のことですが」
 車として、
 そこに荷物も運んで来た

田 「警いこ」これは？」
 「出来たね。……館の方をふり向いて」
 工場がね、工場のことはまあ一時。そこ

田 「え？」
 辺。新屋をつか、こおいてくれたまへ。

田 「これにはおまわが、すこにむか、こなれな
 へしく」すてちゃん、いくつございた？」
 すて「三十ですわ……。だつて倉庫の方の仕事結
 構いぞがしいの、おすもの、取人をニ三人や
 とつていただけねば。」

車 運んで来た箱を開ける、例
 のオエチヤ三十入っている。

田 館「ヤッこれは」
 (平然と)「がや君達早速これを買ってきこも
 とおつかい……。その中から二二のオエチヤを
 君達の給料も出すことにするから」

54

67

取……。すてちゃんも古よつと用があ
 るから私と一諾に末こくハ……。大車業
 大車業……。夕方迄にはおかせしするよ

67 立派な会議 小生

神 士 幸々とりかこまめた田と
 すて、

すて「つまり車爆をつくるにはもう烈な速度
 が必要なんです、速度、ご私は必要
 だけの速度を作るために歯車の組合
 せを考へま。……たの、全部二倍づつ大
 きくて半分づつ小さいんです。その二
 つを組合せれば二乗になります。それを

二乗四十組合せるのです、そうすれば
 二乗の二乗の二乗の……。二乗四十乗
 になります、目が廻りそうなんです。
 こうして出来た衝激を物質にあてるん
 ですよ。御承知のように水素爆弾は
 重水素というのを使います。重水素
 というのは分子結合の二まかい上等
 の水素のことなんです。これが私は
 その物質に重曹を使うことを思いつ
 きました。」

神 士 「全体おかしな話だ、車爆をつくる
 にはものすごく大きな原子爆」とい

55

6/29

「誰か一銭もカニペしてくれないわかったわあ
 へんに一杯人がいるのには。」
 「いいよいいよ そりやするちゃん、みんなを
 運がこわくってあめや、て来てるんだもの
 準備もつくるって、いや誰もお出ししてくれな
 いよ。」それにかニペなんて去産覚めた
 い言葉をつかつちやいけな基金の底幕下
 せいっていうんだよ。」
 さて「そうか、いー
 はん「まあ、この谷間全部が工場みたいになっ
 ちゃったんだね。」
 谷間「くんだりねえ」

6/29 谷間の家々

びこの家でも得計敷屋が
 くりの内取に大童である。
 谷間のはづれのがくがー
 計敷屋敷売所その前に
 も長い行列

7/1 突然、本物の放射能研究所が向う
 不安そうに試験管の中と
 のどまこんでいる本物の

特選龍宮 十三巻

58

128

7/1 放送局
 のどまたち、本物のがらが
 1 計敷屋、がーがーとま
 をたここいる。

7/2 大アンテナ
 電柱をまきながも、メモして
 いる田丸、メモをもつて部屋
 をとび出してゆく。

分走って自動車を
 車の中の田と麻子
 車の前のうすオが鳴らす、
 テレオ「臨時ニコースを申します。刻々と谷中の
 放射能の量が増大してきております。放射能研究所
 の発表により、まあと正午一帯地方には一萬数
 千カレントの放射能を有するホコリが検出さ
 れました。外出にはマスクをわけましょう。
 町を外部に露出しないようにしましょう。水道
 の水以外水のまぬようにしましょう。昨年以
 前に出来たかんがめ以外、食へないようにし
 ましょう。」

田丸めて、ハンドルを切り
 近くにあった温泉ホテル
 の前に横つかけにする。

特選龍宮 十三巻

59

6011.

18 高台の研究所

「すこの実験室、すこの大山倉まで
機械の動に仕掛けておいて
MINKOの車。」

「すこの車も完成よ、おめでとう。」

車「本あかぬ、これで本等に爆発するのわい。」

「すこの見てもうな、すこの実験、すこの見せろ。」

車「大丈夫かし、すこのせん。」

「すこの大丈夫、爆発するときをここであげるから、すこのこ
に伏せて車をぶつくるのわい。」

車「へえ」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
へえ、すこの車を見せ
ろ。」

30

「原爆せん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

車「へえ」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

車「へえ」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

車「へえ」

特選龍宮 十三巻

62

6-12.

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

39 街

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

「すこの爆発音、爆発、すこのわい、
あ、すこのせん。」

特選龍宮 十三巻

63

6~13

6の

館「車、逃げよう」
 車「ごも、ごも、おはこちゃん、もうすぐ、ごんぼう」
 すて「うん、もうすぐ、ごんぼうと待て、ごも、もう一分」
 石段の六
 警察自動車止り、防毒マスクを付けた警官
 の一隊が石段を駆け上ってくる。
 82 すての突撃
 機械に熱中しているすて、おろおろして
 いる二人、
 すて、(振りかへて)「ねえ、出来たわよ、いい今、入るよ、さあ、さあ」
 会図をした、体を伏せ、目をふさぐのよ、いい、さあ、さあ、
 ニ、ニ、ニ、
 同時に、メケメケと、きた警官。慌て
 て、さあ、おいて、さあ、と、待って、くれと
 いう、手に手を振る、館と車
 同時に、機械がガリガリと、音を立て
 て、ごう、然、と、音、な、が、も、爆、音、を、す
 る、
 立ち、昇、る、巨、大、な、白、煙、
 一面に、広が、っ、て、ゆく、煙、
 次第に、け、お、り、が、晴、れ、て、く、ると、ノ、ツ

特選龍宮 十三巻

64

1~14

ペラペラになった地球、
 カメラが、その地球に近
 づいていくと、見渡す
 限りの広い海の中に浮
 んでいる一層の小舟
 その小舟の中にすてが
 一人立っている

特選龍宮 十三巻

65

お鏡すての、実験室
爆発前、人物配置
すてハンドルを握りしめ
硬直して放心しなま衣長
警官「おい、館に車だぞ」
警官「車はさるもきかずに
館と車に近づき手錠を
はめてしまふ。
鏡すての、わがばった顔に
呆んやり笑いが浮かんでくる
すて、さ、やく
すて「成功だわ」
引ずり出されて行く館と
と車


お谷間
興奮してわけわからず
何か口々に叫ぶ手を振り
あげている群集
皆手を差してマスクをして
いる

お石段
警官にはさおれ下りて
くるタクシーと車、その両側

特選龍宮(十三巻)

に、わめきさわいどいる
群集、
その群集の中にしんのお
ろおろした姿がまじって
見える。
突然館が頭を下げ群
集にいう。
館「すみません、皆さんすみません。」
文
文

特選龍宮(十三巻)



『周辺飛行』論

(30)

3. 『周辺飛行』について (21)

「贗魚」改訂版——周辺飛行 26

岩田英哉

戯曲『鞆』の鞆の中に入つてゐる男が男Bである。何故AではなくBでなければ記号はいけな
いかといふ理由は既述の通り。『カンガルー・ノート』の最初の方に出てきた垂れ目の少女
が最後には垂れ目の少女Bになるのと同じ理由で、既存の交通体系から新しい交通体系へと
軌道を変換することになる役目を、この男Bは箱の中で担つてゐるのです。ですから、鞆も
また箱であつて、あの短編小説『使者』の火星人の出現によつて主人公の知つてしまつた「箱
の中の論理」によつて此の『「贗魚」改訂版』は冒頭から始まつてゐる。

この男Bは「大きなダンボールの箱一つ」の中にあるので、この男Bは『箱男』の主人公た
ちである箱男の一人だと考へても良い。しかし、一人の役者が演じてゐるし、確かに科白も
一人の話す科白であるが、この役者の演ずる此の男Bは複数の男Bの集合名詞であると理解
し、科白はと云へば例の如く、科白と科白の隙間に潜む他の箱男たちである男B'、男B''、
男B'''……が無数に存在してゐると考へても良いのです。

ゴミ語でお喋りするゴミュシたち (女A, B, C) に取り巻かれて覗かれたり批評されたりし
てゐるうちに、男Bは贗魚に「いつの間にか」なつてゐるので、これを知つて。

男B おれが、贗魚だつて？

と男は叫ぶことになる。

この舞台で役者たちがどんなゴミュシ語を喋つたかは解りませんが、しかし多分間違ひな
く、このゴミュシたちのお喋りが、蜂がブンブン言ふやうに、繰り返しの呪文なのです。

改訂前の初版との大きな相違は、主役が男Bと女Bに移動したことです。それ以外の男女は
脇役に廻つてしまつた。これが安部公房曰く「前回の「贗魚」のうち、第七、第八景を、そ
れぞれ次のように改訂した。アドリブを積み上げてみた結果の変更である。」前回説明の通
りに、この二つの最後の景は、それ以前の存在の空間から脱出した二章であり、これが此の
改訂版で一つになつて、即ち1に即ち存在に更になつたと云ふことです。と云ふことは、ま
たもや最後には此の贗魚と変身した男Bは箱の中の迷路から脱出することによつて死ぬと云
ふことで次の存在への方向標識板である立札「終りし道の標に」立つことになるのです。さ
うして、新たな次の存在へと死と引き換へに旅立つ。この場合の立札は最後をみますと、男
Eの繰り返しの次の呪文になつてゐます：

男E いやだ、いやだ、いやだ、いやだ……（拒絶の身振で、再び箱を閉ざしてしまう）

ここで最初に戻ると、立札の役を演ずる男Eは、箱男の一種で最初から既に男Bと同じ「箱の中の論理」の迷路にみて次の科白を吐いてゐる。この科白を発する契機が、女A・B・Cによるコロス（合唱）で、とは云へ分割された声で同じ「貝殻草のにおいを嗅ぐと……」と云ふ言葉の一部を初版の科白と同様に一人づつが分担して発声する後に、

男Eの声 （ダンボール箱の中から）Boa-ch Boa-ch Boa-ch Boa-ch……

男Eの此の呪文といふ立札の後に、男Bは次の叫び声を上げる：

男B （大きく四方にかけて）覚ましてくれよ！おねがいだ、おれを夢から覚ましてくれよ！

この科白で、やはり此の最終の統合された景は、まさしく私たちの知つてゐる小説『箱男』の《それから何度かぼくは居眠りをした》章の中の鰐魚であると知ることができます。それならば、夢から覚めたら次の夢の中へと目覚めることの永遠の繰り返しの中へと目覚め続け、夢の世界は上下のない世界ですから、上昇が下降であり下降が上昇であるといふ価値そのもの世界であるが故に、次の二人の男の会話が成り立つ：

男E おれたちは魚なんだぜ。魚がどうやって墜落できるんだ。宙に浮いてる風船みたいなものじゃないか。とぼけるんじゃないよ。

男B 風船だって墜落するさ。プスっと針でもさせば……

冒頭からここまでの会話は、『不思議の国のアリス』の登場人物たちの話す科白と何ら変はらない。全くナンセンス（無意味）の言葉の応酬で、この科白が此の芝居の娯楽の要の一つとなつてゐます。この科白を新劇調の声調でいふことは難しいでせう。もし役者が新劇調で科白を口にすると、今度は体がついて行きません。一つ一つ引用はしませんが、これは戯曲『友達』の鰐魚の構成員たちのやりとりだと思つて一向に差し支へのない同質の会話です。即ちこの科白と科白の隙間の飛躍、これは安部公房の詩の世界なのです。この隙間に箱男Bの一人が隠れてゐる、それも「これはある職業的關係によつて」（「周辺飛行5」）に書かれてゐた「直接観察の対象とはなっていないが、あらゆる場面につねに君臨している、特権的重症患者一名」のやうにして。それ故に、男Bと男Eは最初から同じ箱の中に、もつと正確に云へば同じ「箱の中の論理」といふ迷路の中に「いつの間にか」因果律を離れてさ迷ひ入つて、最初から、劇場の幕の開く「以前に」、ゐたのです。

男Eの拒絶の繰り返しの言葉の後に男Bの科白があり「夢であることを自覚できたときは、すでに夢の出口にさしかかっているのだとい」つて「待つことにした」鰐魚（男B）は、その次の同類鰐魚（男E）を「除く一同」の次の科白で存在の海の形象（イメージ）の中に汎神論的に存在する存在となつて芝居は終ります：

男Eを除く一同 意志までが海の青さに染まって、青ざめてしまったようだった。

果たして、これが自殺なのか未必の故意なのか、他殺なのか事故なのか、そして此れが自然なのか偶然なのか必然なのかといふ問いに答へることが、初期安部公房から引き続き舞台化されてゐる「無意味になるまでアクションを細部に分解する」結果を招来するのが、あるひは其のやうに結晶したものが、無意味・ナンセンスの科白のやりとりであるといふことが、ここまで来ると、何故安部公房が生涯『不思議の国のアリス』が「ポーの次に好きだ」つたのか其の固有の理由の説明になつてゐますので、この公房好みのアリス好みが、よく解ります〔註1〕。

前回の「周辺飛行25」で得た結論の一つを再度引用すると、

「アクションの徹底的な分解は、けっきょく、現実を無意味なまでの細部に解体する」ことによつて《ミュージカルスとドキュメンタリーの結びつき》の統合は現実のものとなる。」（『周辺飛行』論（28）：「贗魚（「箱男」より）—周辺飛行25」もぐら通信第117号）

安部公房にとつては、安部公房スタジオの舞台もまた《ミュージカルスとドキュメンタリーの結びつき》の《》といふ独自の超越論（汎神論的存在論）の記号の示す通りの異質のものを統合する現実の場所（topos）であり〔註2〕、従ひ、生まれた形象（イメージ）もまた確かに現実であつたのです。仮令（たとへ）、それは舞台の上では楽音のやうに一瞬で消えてしまつたとはいへ。そして、観客は劇場を退場した後も白昼夢と云ふ現実を夢見続ける。

〔註1〕

「安部 ルイス・キャロルはとても好きです。エドガー・アラン・ポーの次くらいに。」
（『〈安部公房との対話〉』〔聞き手〕ナンシー・シールズ：全集第24巻、274ページ上段）

〔註2〕

安部公房の使用する独自の超越論の記号については初期安部公房論『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』（もぐら通信第56号から第59号）に詳細に論証しましたのでお読み下さい。

山本健吉の安部公房作品論
～『壁』から『燃えつきた地図』まで～

岩田英哉

山本健吉の安部公房作品論～『壁』から『燃えつきた地図』まで～

山本健吉の文藝時評を基に、安部公房の作品の謂はば書評短信ともいふべき作品評を掲題の下に並べて、同時代の作品群を安部公房作品を軸に輪切りにして示し、安部公房の作品への理解を深めるとともに、当時の文学界の様相を知らうといふ試みです。

帯文によれば、この文藝時評は「鋭い批評眼と深沈な文学意識によって月々の作品を分析し、戦後20年の文学の流れを動的に展開する文学史」だといふ通りに優れた文藝作品の歴史を記録に留めるものになつてゐます。私たち読者としては、安部公房が芥川賞受賞の昭和26年から、山本健吉が筆を擱く昭和42年（1967年）の『燃えつきた地図』までを同氏の言葉を辿つて見直してみたい。各作品と批評の紹介に次の項目を共通する縦糸とします。

- (1) 昭和の月の名前
- (2) 安部公房の作品
- (3) その他の同月の作家名と作品

安部公房の作品は『壁』から『燃えつきた地図』まで戯曲も含めて全部で12作品。この日本の古典に造詣の深い批評家が安部公房といふ、日本文学の伝統から見れば奇妙奇天烈な作家を最も多く論評するといふ当時の文学界の事情は、芥川賞への強い推薦をしたのが、私小説の大家滝井孝作とまた川端康成であつたといふ事情に何処か通じてゐるものと見えます。といふのは、安部公房の12作品と云ふ数字は諸家の中でもやはり相当に多い数で、これを大きく抜くのは、20を超える回数を数へ挙げれば、井伏鱒二（21）、円地文子（26）、大江健三郎（27）、上林暁（23）、椎名麟三（22）、丹羽文雄（20）、武田泰淳（28）、堀田善衛（20）、三浦朱門（23）、そして群を抜いて三島由紀夫（34）、そして鈴鹿サーキットに安部公房と一緒に通つて二人一緒に写真の残つてゐる安岡章太郎（23）、安岡章太郎と同じ「第三の新人」と呼ばれた作家の一人吉行淳之介（28）です。

安部公房の作品は次の12作品です：

- (1) 壁
- (2) バベルの塔の狸
- (3) 水中都市

- (4) 死んだ娘が歌った
- (5) 奴隷狩
- (6) 制服
- (7) けものたちは故郷をめざす
- (8) 巨人伝説
- (9) なわ
- (10) 他人の顔
- (11) 短編小説の可能性 (対談)
- (12) 燃えつきた地図

1。壁：昭和26年3月：1951年

「安部公房の「壁」(近代文学)も二百六枚の力編だが、これは風刺文学と言うより寓意文学と言うべきだろう。名刺に逃出されて自分の名前を落としてしまった男という着想も奇想天外だ。永久につづく裁判から逃れ出すために「世界の果」に逃亡しようとするが、地球が丸くなってから世界の果は四方八方から追いつめられて、結局壁によって限定された自分の部屋だということになっている。実存主義者の言う壁という概念が巧みにヒネられてあり、ここでは庄野におけるような日本の現在の政治ではなく、人間の条件そのものが諧謔の対象となっている。そこに近代的な相違も感じられるが、これを読みながら、私が大いに笑ったことも事実であり、この作者の特異な鋭い才能と観念小説への大胆な試みに敬意を表したい。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 大岡昇平：野火、家
- (2) 三島由紀夫：禁色
- (3) 山田清三郎：最終陳述
- (4) 大田洋子：蛆
- (5) 宮本百合子：刻々 (遺稿)
- (6) 武田泰淳：妄想くらべ
- (7) 上林暁：鉛筆の家
- (8) 井伏鱒二：パイプについて

2。バベルの塔の狸：昭和26年5月：1951年

「安部公房の「バベルの塔の狸」(人間)は、この新人が開拓しつつある新しい寓意小説として注目すべきである。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 原民喜：心願の国 (遺稿)
- (2) 丸岡明：原爆と知識人の死

- (3) 佐々木基一：原爆と作家の自殺
- (4) 武田泰淳：春日異変
- (5) 阿部知二：漂う人
- (6) 堀田善衛：歯車
- (7) 北原武夫：悪臭の夜
- (8) 室生犀星：餓人伝
- (9) 高見順：あるリベラリスト
- (10) 大岡昇平：女相続人
- (11) 三島由紀夫：翼
- (12) 永井龍男：鳶の影、旧市内、狐
- (13) 椎名麟三：ある不幸な報告書、死人の家
- (14) 野間宏：奪いとられて

3。水中都市：昭和27年6月：1952年

「また石川淳の「他人の自由」（別冊文芸春秋）坂口安吾の「夜長姫と耳男」（新潮）安部公房の「水中都市」（文学界）など、それぞれ寓意小説ないし観念小説と言わるべきものである。ことに石川の作品は、小説の新しいメカニクな構成法を探りながら、人間精神の無力と政治機構の暴力とへの痛烈な風刺をこめている。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 石川淳の「他人の自由」
- (2) 坂口安吾の「夜長姫と耳男」
- (3) 上林暁：たばこ、蹠蹠（まんさん）
- (4) 和田伝：貧富
- (5) 真船豊：花作り
- (6) 船山馨：大力開眼
- (7) 藤原審爾：天才
- (8) 火野葦平：皿
- (9) 庄野誠一：この世のあるかぎり
- (10) 三好十郎：妙な女

4。死んだ娘が歌った：昭和29年5月：1954年

「安部公房の「死んだ娘が歌った……」（文学界）も、長編「死者の町」の一部である。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 伊藤整：日本文壇史
- (2) 白井吉見：近代文学論争
- (3) 田中西二郎：鷗外と露伴

- (4) なかの・しげはる：むらぎも
- (5) 井伏鱒二：漂民宇三郎、痴人、黒い壺
- (6) 川端康成：みづうみ、名人余香
- (7) 石川淳：虹
- (8) 里見淳：逆潮
- (9) 西野辰吉：秩父困民党
- (10) 宇野浩二：今は昔の語り草
- (11) 阿部知二：ひとりずつ
- (12) 井上友一郎：悪い道路
- (13) 三好十郎：傾斜
- (14) 加藤道夫：危険な演技
- (15) 富士正晴：競輪
- (16) 金達寿：母とその二人の息子
- (17) 佐多稲子：あるときの接触
- (18) 尾崎士郎：無為
- (19) 滝井孝作：奇禍

5. 奴隸狩、制服：昭和29年12月：1954年

三浦朱門の「野性の山羊」の持つ、この作家「におけるロマネスクな要素は、彼の時代の時代感覚に対して、余りにも硬質の外被をかぶせすぎてはいないだろうか」と云ふ自分の三浦朱門作品への批評に関連して「その点では、やはり私は安部公房の「奴隸狩」（文芸）に、いつそう深い関心を示さざるをえない。カフカに詳しい山下肇が「実存のロマネスク」と言うことを言っていたが、それはこの作品などにおいても言えるものではなかろうか。文体は硬質だが、それは人間の状況をいわばメカニックに造型しようとするたくましさであろうし、また反ローマン的な現実感覚の鋭さでもあるだろう。田地という男が、無人島から仕入れて来たウエーという、人間によう似た動物が、牧場の柵を破って逃走したことから起こるある町の混乱を描いている。風刺ととれば何とでも言えるが、そのように性急に、一定の思想の等価物として受け取られることを拒否するような、寓意的なイメージの豊さと、ユーモアの横溢とがある。

安部の初期の作品には、解体された現実的イメージの、キラキラした破片の豊さに、ついて行きがたい印象も受けたが、この作品などは作者の意図が総合的な方向にむかって来ているようである。だがまた、ウエーを柵の内から解放するに至った田地の動機が告白されていない第一部においては、結論を出すことは差しひかえよう。

安部公房の「奴隸狩」に対して同じ作者の一幕喜劇「制服」（群像）は、正反対の印象を受けたのである。それは、この作品に現れているあからさまな思想性から来るものらしい。劇である以上、思想を軸としてではなく、行為を軸として回転すべきで、その場合、思想は作品の額縁の役割を果たせば十分ではないか。むしろその方が、思想的効果も力強

いのではないのか。

敗戦の年の朝鮮の港町を背景に、一年前に首になりながら、まだ巡査の制服を着ている男を中心に、その男の殺人か凍死か分からない事件を、植民地虐殺の問題をからませて展開する。簡単な舞台上に生者と死者とを交錯させ、映画の「羅生門」のような手法で、一つの事件を多面的に、また漸層的に明らかにしようと試みたところはたいへん面白かったし、この作者の戯曲的才能を証明するに十分であった。ただ私の言いたいのは、犯人と被害者との区別がつかなくなり、結局制服という一つの「もの」に責任があるというサゲが、風刺喜劇たる所以ではあろうが、いささかお説教的で、戯曲的構造を弱めているのが惜しいのである。だがともかく、今月発表の二作によって彼ばもっとも新風を期待せしめる作者たることを、証明しているのは事実である。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 小島信夫：神
- (2) 庄野潤三：プールサイド小景
- (3) 三浦朱門：野性の山羊
- (4) 桂芳久：石の潤い
- (5) 村上兵衛：星落秋風、医師と参謀
- (6) 正宗白鳥：旧家没落
- (7) 高見順：トリマカシー
- (8) 壺井栄：空
- (9) 上林暁：卓上演説草稿
- (10) 大田洋子：夕風の街と人と

6。けものたちは故郷をめざす：昭和32年4月：1957年

「今月は安部公房氏の「けものたちは故郷をめざす」（群像）の連載が終わり、三島由紀夫氏の新連載「美徳のよろめき」（同）が始まった。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 河上徹太郎：『神々』との対決
- (2) 江藤淳：現代小説の問題
- (3) 篠田一士：野上彌生子〈迷路〉論
- (4) 三島由紀夫：美徳のよろめき
- (5) 澤野久雄：松前富士
- (6) 野淵敏：水の歌
- (7) 小沼丹：カンチク先生
- (8) 長谷川四郎：コマ太郎
- (9) 石原慎太郎：蟻螂の庭
- (10) 新田次郎：火山群

- (11) 円地文子：耳瑯珞
- (12) 北原武夫：魔に憑かれて
- (13) 正宗白鳥：わたくしも女
- (14) 室生犀星：まぼろし往来
- (15) 葛城紀彦：金山師
- (16) 小林勝：川と白壁の村
- (17) 山井道代：白い曲線
- (18) 原田康子：夜の出帆、馴鹿と死と、薔薇の匂い、愛しの鸚鵡
- (19) 阿川弘之：夜の波音
- (20) 森山啓：生死
- (21) 福永武彦：夜の寂しい顔
- (22) 丹羽文雄：お吟
- (23) 宇野千代：おはん（完結）

7. 巨人伝説：昭和35年3月：1960年

「安部公房の「巨人伝説」（文学界）は、十六景の戯曲である。ある北国の村を舞台に、十五年前の冬と現在の夏とを、交互に出すという仕組みで、ときどき間に、ナレーションがはさまれる。戦争中の脱走兵さわぎと、現在の選挙さわぎとを対照させ、その中に、簡易食堂の女主人と、昔の駐在巡查との関係を、一本の筋として通している。方言劇だが、場面転換のテンポが快適であり、喜劇としてのきびきびした面白さがある。

だが、この作品から深い社会風刺がくみ取れるわけではない。主人公の大貫（元巡查）が、今は行くところもない、最低の生活に落ちているのだから、彼の非人間ぶりに対する批判が、さっぱり共感を覚えさせないのだ。「巨人伝説」とは、大貫の強く、非情になろうという願望を指しているのだろうか。東国に多いダイダラ法師の巨人伝説が、彼の願望に、つねに二重うつしになって、それはこの作品にユーモラスな民話的雰囲気を加えている。だが結局最後に、二人の子供を死なせて、食堂の主人におさまるのが、ダイダラ法師になる願望の到達点だったのだろうか。そう種明かしをされてみると、なにか背負い投げを食わされたような失望を覚えるのだ。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 中村真一郎：熱愛者
- (2) 佐藤春夫：幽明界なし
- (3) 中野重治：日暮て
- (4) 尾崎一雄：川田宗吉とのつきあひ
- (5) 倉橋由美子：パルタイ

8. なわ：昭和35年8月：1960年

「少・青年の世界をあつかった作品に、丹羽文雄の「水溜り」（群像）安部公房の「なわ」

(同) 安岡章太郎の「われらの隣人」岡松和夫の「僕たちの勝利」(文学界)などがある。それぞれのできばえを示しているが、少年の世界は、犯罪を書くと妙に成功するものらしい。少なくともここには、倉橋が空想ででっち上げたような少年犯罪はひとつもない。

だが、少年の世界は、まだコントンに至らない一つの状態なのだから、詩的な作品的秩序を与えやすいのも事実であって、そのために、少年物といえ、昔から一つのツボにはまってしまっているのである。少年の無垢と本能的な衝動とのまじり合う世界を書いてそれを犯罪行為として強調している点で、安岡と安部の作品は共通している。その成功している点と不満とが、表裏なのだ。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 倉橋由美子：密告、婚約
- (2) 吉野珠子：むかしの仲間
- (3) 丹羽文雄：水溜り
- (4) 安岡章太郎：われらの隣人
- (5) 岡松和夫：僕たちの勝利
- (6) 中野重治：ある楽しさ
- (7) 外村繁：落日光景
- (8) 椎名麟三：付添いの女

9. 他人の顔：昭和39年1月：1964年

「安部公房氏の「他人の顔」(群像)は、長編の一章掲載である。むしろ中編と言うべきだろう。「新潮」で中編小説と称している四編は、やや長めの短編に過ぎない。

「他人の顔」は、「私」が妻に読ませるために書いた、二冊の手記から成っている。

「私」はある研究所につとめる科学者で、ある化学実験のとき爆発して、赤黒くふくれ上った「ケロイドの蛭」のため、ふた目と見られない顔になり、ホウタイの上に眼鏡とマスクをして生活している。事故以来、彼は正常の人間関係から拒絶され、妻は肉体関係はもとより、口もはかばかしくはきかなくなり、「顔」との対決を避けている。

彼はプラスチックによる精巧な「仮面」を作り、仮面をつけた彼が他人になりすまして、妻を誘惑することを計画する。だが彼が成功することは、同時に、妻の密通の現場に立ち会わされた寝取られ男の苦痛を、経験することでもあった。一人二役の三角関係が、そこに出来上る。彼の嫉妬が妻の魅力をひきたてると、その魅力が彼の誘惑の情念をそそり、誘惑された妻がさらに嫉妬をかき立てるといった、一刻の休みも終りもない三角形の悪循環のなかに踏みこんでしまう。

だが、もう一度もとのホウタイに戻ると、それは「顔のない化物」に過ぎず、彼はたしかな陸地—仮面—に一刻も早く帰りたくなる。ところがその仮面は、すでに妻を取り戻すための手段ではなく、妻の裏切りをたしかめるための隠しカメラでしかない。「彼」と「仮面」とは、反目し合いながら、止まるところがない。

とどのつまり、仮面を捨てての告白となる。だが彼の仮面劇を、妻は知っており、知り

ながら誘惑されていたことが、最後にわかるのである。

これは顔、あるいは仮面についてのエッセイとして読んでも、良い部分がある。安部氏は前にも、名前を落とした男についての小説を書いたことがあるし、顔が裏返しになった男も書いていたと思う。これは、「私」と「もう一人の私」と彼女との「非ユークリッド的」な三角関係から生ずる矛盾について、そのもつれを明快に解いているが、実はそういった図式的解釈よりも、仮面を作る工程や、仮面の表情を選択した経路や、そういった前半の部分に作者の本領が発揮されている。ヨーヨーをやっている小娘と妻の二人だけが、彼の仮面を見破る透視者でありえたという設定も、面白い。

ことに、作者の論理的で抽象的な文体は魅力があり、おそらく氏は、当代の名文家の一人といってもよかろう。だが、こういう題材の小説は、何度繰り返されてもさしたる深化が感ぜられない。私はデビュー当時の氏の作品と、これとを比べて見て、文体以外に進歩の跡を認めがたいように思うのだ。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 中村光夫：わが性の白書
- (2) 川端康成：片腕、ある人の生のなかに
- (3) 井伏鱒二：横丁の話
- (4) 永井龍男：襟巻
- (5) 上林暁：坪井立町の八百屋
- (6) 尾崎一雄：うしろ影
- (7) 小山捷平：弾痕
- (8) 佐藤春夫：小説、シャガール展を見る
- (9) 平林たい子：熊
- (10) 宇野千代：這う
- (11) 大江健三郎：空の怪物アグイー、アトミック・エイジの守護神
- (12) 深沢七郎：安芸のやぐも唄
- (13) 安岡章太郎：猫の庭、野の声
- (14) 大岡昇平：路上

10。短編小説の可能性（座談会）：昭和40年7月：1965年

「安部公房氏と大江健三郎氏が「短編小説の可能性」（世界）という題で、対談をやっているのがおもしろかった。両氏ともこの変革期における文学形式として、その尖鋭な利点を見直そうという点では、一致している。

だが、両氏の言い分には、微妙な差異がある。大江氏は短編に「開いた短編」と「閉じた短編」とがあるという。「開いた短編」とは、「現実生活に対する呼びかけ、働きかけを通じてやっとバランスがとれる、未完結の性格」をもち、「閉じた短編」は、「その短編の世界だけですでに完成し、現実に関わらない」。氏はもちろん前者を取るわけであるが、安部氏は「短編小説には非常にアクチュアルな、すぐに既成の形式を乗り越えられる

自由さと同時に、反面、非常に成熟しやすい面をもっているから、短編のそうした完結性を無視して、その本質を捕えることはできぬ」という。

私は「開いた」「閉じた」とか、「前向き」「後ろ向き」とかいった言葉で、単純に割り切ることに疑いを持つし、安部氏の言葉に一日の長を認めるものだ。大江氏は原民喜の「夏の花」を、「短編のあとに無限に続いて行くべき現実があり」、形式として完成していない。と言っているが、発表当時読んだ私たちには、これは形式的にも間然するところのない作品として受け取られたのである。「未完のまま突然終わってしまった」ような緊迫した印象は、まさに作者がそうあることを意図したものであって、氏が泉大八・佐木隆三氏等を例にして言った「まずいけれども開いた短編」というのとは、異質のものだ。

だが、人生に何のかかわるところもない、作り話が氾濫している日本の小説界で、両氏の提唱は短編に対する新たな刺激を起こすに足るだろう。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 小島信夫：抱擁家族
- (2) 西義之（評論）：戦後文学の正統と異端
- (3) 安岡章太郎：埋まる谷間
- (4) 遠藤周作：道草
- (5) 三浦朱門：ギター
- (6) 吉行淳之介：日暮どき
- (7) 開高健：兵士の報酬
- (8) 菊村到：数珠と幻想
- (9) 大西兼治：お迎え待ち
- (10) 石原慎太郎：獅子の倒れた夜
- (11) 丸岡明：見知らぬ街
- (12) 河野多恵子：臺に載る
- (13) 原田康子：末路
- (14) 阿部光子：鏡のおもて

11。燃えつきた地図：昭和42年11月：1967年

「安部公房氏の「燃えつきた地図」（新潮社）は注目すべきものだが、すでに本紙〔引用者：読売新聞〕を始め、書評が出つくした感があり、見送ることにした。」

同月の他の作家名と作品：

- (1) 舟橋聖一：好きな女の胸飾り
- (2) 高井有一：少年たちの戦場
- (3) 庄野潤三：雉子の羽（完結）
- (4) 大江健三郎：走れ、走りつづけよ
- (5) 丸山健二：狭き魂の部屋

『砂漠の思想』を読む

(5)

II 砂漠の思想

「裁かれる記録係」

岩田英哉

「周辺飛行25」の考察で今回の「ストーリーの罫」に関係する次の引用から《砂漠の思想》の読解を始めたい。

「『贗魚』の構造」図に「『周辺飛行26』では此の二つの章が一つになり、案内人の男B女Bが表立つて主要な役割を演ずる章となつてゐる」と右上に註したやうに、表立つては『S・カルマ氏の犯罪』に典型的であるやうに、安部公房にとっては言葉と裁判、即ち抽象度を上げていふと言語と裁判または言語と罪と罰といふ主題は尽きることのない主題なのです（『砂の女』のエプグラフ「罰がなければ、逃げるたのしみもない」）。おそらくは此の主題の提示のあり方からいつても、また十代の安部公房は『地下生活者の手記』といふ人間の在り方からいつても（例へば『方舟さくら丸』）ドストエフスキーの愛読者なのであり、表立つての言及が少なければ少ないほどに安部公房にとっては本質的に重要な藝術家が此のロシアの文豪なのです〔註3〕。」

この引用だけでも、何故記録係が裁かれなければならないのかの全体は明らかです。登場人物の言葉を文字で記録すること、または言葉で登場人物の動静を文字で記録することは、犯罪的な行為であり、従ひ裁判にかけられて有罪の判決を受けることになるのだといふのが、安部公房の論理なのです。従ひ、一体何故そのやうに文字で記録することが罪を犯すことになるのかを此の周辺飛行では読むことになります。罪は法律に対する罪、即ち記録することが法律を犯す犯罪であるか、または犯罪の構成要件を満たす要件の一つであるか、または其の原因をなす元々の行為が記録であるか、といふことになりますが、さて、本当にさうかどうか、ここまでは理屈の話です。

この章で取り上げられてゐる映画は、ポーランドの映画監督のワイダといふ監督の製作した『地下水道』といふ映画です。名前からして地下でありますから、安部公房好みです。そして映画の冒頭もまた公房好みであつて、「画面はまず、ワルシャワの廃墟からはじまった。」と文章が始まるのです。続く「まるで、かくしカメラで撮った、実写の用意さえ見えた。」といふ映像の質もまた、安部公房の写真と同じ感触ですし、また廃墟にはゴミ捨て場や廃車場や軍艦島やニューヨークの街角の大陸仕様の巨きなドラム缶のゴミ箱なども（街角の風景も含めて）含まれるのである以上、これもまた公房好みである。

さうして、ここまで来て、さて安部公房にとっては映画とは、夜に子供の安部公房にとつて閉鎖空間である二階の勉強部屋の明かりを消して「奉天の窓」から外をカーテン（銀幕）越しに見てスクリーン（銀幕）に映る月の影の反照であつたなといふことを思ひ出し、その夜の世界が砂漠であつて地平線まで広漠たる不毛の地であることを思ひ出せば、

「地下水道」といふ此の映画評論の最後に「附記」と題して（『箱男』の「箱の中の論理」に拠る〔註1〕のと同じ論拠で）「出口のない空間の中での、残酷な実験ということですから似かよっている」と云ふクレマン監督の映画『海の牙』に言及してゐることもまた、二つの公房好みの映画で始めと終わりが対応してゐて誠に結構のしつかりとある、記録系の「罪と罰」論になつてゐる。

この二つの映画は、出口のない空間の迷路といふことに加へて、その迷路が「細長い円筒というところまで共通している。」といふ安部公房の言葉は、既にこの円筒といふ幾何学的な形象からいつても、円といふ二次元の図形が積分の結果チューブのやうな曲がりくねつた三次元の円筒になつたといふ形象を、即ち安部公房独自の数学的言語論の形象（イメージ）を思ひ描いてゐるので、この記録系の罪は、時間の中にあるものを積分して一次元上の形象に変形させてしまつたといふこと〔註2〕、それも言葉によつてそれをなしたといふことが、法律といふ時間の中で立案され国家の制度に従つて（勿論この制度を定めるのは憲法といふ国家経営の最上位規則である）言葉で叙述されて、法律といふ時間の中で定義された厳密な言葉に拠つて執行される国家的な行為または社会的な行為に対して、法律で定義されてゐる円形を記録係が一次元上の、即ち時間を捨象して積分値を求めたことにあるのだ、これが彼の罪であるといふ認識が、安部公房の認識だといふことが解ります。これが、安部公房のドキュメンタリー（記録藝術）論の核心なのです。即ち、ここでも、安部公房の記録藝術論、ドキュメンタリー論は、このやうに超越論である。超越論とは時間の因果の連鎖によらないと云ふ意味、因果律とはそもそも無関係な論理と云ふ意味です。付言すれば、もう一つの空間的な超越論の意味は、空間的な制約を受けた事物の配列（前後・左右・天地・東西南北・内外・上下）とはそもそも無関係な論理と云ふ意味です。

〔註1〕

『箱男』の「箱の中の論理」とは、この言葉の初出は『使者』といふ人間そつくりの火星人を巡る短編小説に於いてですが、この論理は名前はどうあれ、最初期は『天使』といふ此れも短編から最後の作品『カンガルー・ノート』の、安部公房の好きだつた詩人宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』を思はせる列車の連結計7輛全7章からな此の作品にまで及ぶトポロジーを巡る論理です。同じ文章が、私たちは『人魚伝』といふ、最後には主人公が「沢山のぼくの類似品」になつてしまつてゐる小説の冒頭にあることを知つてをります。引用します：

「ぼくがいつも奇妙に思うのは、世の中にはこれだけ沢山の小説が書かれ、また読まれたりしているのに、誰一人、生活が筋のある物語に変わってしまうことの不幸に、気がつかないらしいということだ。（略）

物語の主人公になるといふことは、鏡にうつつた自分のなかに、閉じこめられてしまうことである。向う側にあるのは、薄っぺらな一枚の水銀の膜にしかすぎない。未来はおろか、現在さえも消え失せて、残されてゐるのは、物語という檻の中を、熊のように往ったり来たりすることだけである。（略）息をひそめた囁きや、しのび足が求めているのは、むしろ物語から人生をとりもどすための処方箋……いつになったら、この刑期を満了できるのかの、はっきりした見とおしだというのに。」（全集第16巻、77ページ）

これでわかる事は、安部公房の物語観ですし、それは其のまま小説観です。

- (1) 物語は主人公の閉籠められてゐる閉鎖空間である。何故ならば、
- (2) この空間は合わせ鏡の空間であるからだ。
- (3) この空間には時間は存在しない。従ひ、

- (4) 主人公はただ「物語という檻の中を、熊のように往ったり来たりすることだけである。」しかし、
 (5) 小説は本来「筋のある物語」ではない。
 (6) 日常の時間に生きる人間は「筋のある物語」を求める不幸の自覚がない。
 (7) 「自分の人生をとりもどすための処方箋」として、安部公房の「筋のない物語」として小説はあるのだ。

この(7)にある此の目的のための小説の形式(form)と様式(style)が、「シャーマン安部公房の秘儀の式次第」です。それ故に、いつも安部公房は存在へのtopologicalな「終わりし道の標べに」立て札の標識を立てて、そこに存在の方向を示して、この世での主人公の死とともに、読者を次の次元へと案内して、小説は終るのです。

この安部公房の小説観のついでに、同じ小説観を述べてある作品で、『人間そっくり』の元の短編『使者』にある主人公奈良順平が火星人と自称する男と会話をしながら心の中で思ふ論理を見てみませう。

「……気違いだとする、こいつは相当によく出来た気違いだよ。だが待てよ、もし本物の気違いなら、この話はそのまま使ってもかまわないだろうな。これが使えるとなると、今日の馬鹿気た手違いも、まんざらではなかったということになる。さっそく今日の講演に拝借してやるか……うん、ちょっとした風刺もあるし、なかなか悪くなさそうぞ……題は「偽火星」……通俗的すぎるかな？「箱の中の論理」というのはどうだろう？いや、ちょっと高級すぎるよ。なにかその中間くらいのを考えてみることにしよう……」

(『使者』全集第9巻、306ページ下段～307ページ上段) (傍線筆者)

[註2]

安部公房の変形の形象(イメージ)である「言語の形象は積分値」に関する理解に資する発言の好例は次のものです：

「 ついでにパブロフについても触れておくべきだろうな。(略)でもあえて推測すれば、要するに言語は一般条件反射の積分値だと言いたかったんじゃないかな。

——積分値、ですか？

安部 積分値というのは、要するに平面上に描かれたあるカーブを、平面ごと移動させて出来る三次元像を考えて貰えばいい。初めが円なら、こう、チューブになる……

これはパブロフの暗示にもとづく類推だけど、僕としては積分値よりもやはりアナログ信号のデジタル転換のほうを採りたいな。大脳半球の片方(言語脳)が、どんなやりかたで、アナログ信号をデジタル処理しているのかは、今後の研究に待つしかないけど、言語がデジタル信号であることは疑いようのない事実だからね。」(『破滅と再生2』全集第28巻、255ページ)

また、

「たとえばパブロフは、条件反射で有名なあのパブロフですが、《言語》を一般の条件反射よりも次元高次の条件反射とみなしていたようです。(略) 「次元高次」のという意味は、たとえば紙のうえに円を画き、その円を紙から話して空中移動させてみてください。チューブが出来ますね。平面が次元高次の空間になったわけです。言葉を替えれば次元が次元に積分されたこととなります。つまりある条件反射の系の積分値として《ことば》を想定したのがパブロフの仮説になるわけです。ぼくとしては「積分」よりも「デジタル転換」のほうを採りたいような気もしていますが、今のところこれ以上の深入りはやめておきましょう。肝心なことは、《ことば》をあくまでも大脳皮質のメカニズムとして捉えようとした姿勢です。」

(『シャーマンは祖国を歌う一儀式・言語・国家、そしてDNA』全集第28巻、232ページ)

また、『死に急ぐ鯨たち』の「破滅と再生2」〔(昭和61年、1986年)：全集第28巻、252ページ〕に、ここでは、ローレンツとパブロフに言及しながら、言語を論じている箇所が多々ある。その一例

を：

「(言語が) 積分値というのは、要するに平面上に描かれたあるカーブを、平面ごと移動させて出来る三次元像を考えてもらえばいい。はじめが円なら、こう、チューブになる……

これはパブロフの暗示にもとづく類推だけど、僕としては積分値よりもやはりアナログ信号のデジタル転換の方を採りたいな。大脳半球の片方(言語脳)が、どんなやりかたで、アナログ信号をデジタル処理しているのかは、今後の研究に待つしかないけど、言語がデジタル信号であることは疑いようのない事実だからね。」

この「裁かれる記録係」論で展開される映画評論の論拠になつてゐるのは、安部公房の言語論の分類でいへば、言語のもつ二つの機能のうち、法律の言葉は集団化機能を代表し、記録係の言葉は個別化機能を代表するといふことです〔註3〕。

〔註3〕

最後のインタビュー・評論集『死に急ぐ鯨たち』に所収の「テヘランのドストエフスキー」より引用します(全集第28巻274ページ上段)：

「ただ一つ人間が動物と違う点は、刺激信号に物や出来事だけでなく、あわせてデジタル的な記号、つまり言語を利用できるようになった点である。もちろん言語の獲得で人間が手にしたのは、単に集団の行動を統制する能力だけではない。むしろ精巧をきわめてはいるが融通のきかない動物行動の「閉じたプログラム」の鎖を切り、各人がばらばらに個別反応をする「開かれたプログラム」の鍵を手にしたことだろう。この言語という個別化の鍵によって、人間は「群れ」を構造化し、複雑な社会化をなしとげることが出来たのである。

(略)

「儀式化」は本来「個別化」とセット販売される抱き合せ商品だったはずなのだ。」

さて、これらの映画の他に此の同じ「ストーリーの罨」と題する映画評論に名前の挙げられてゐる映画に次の五つの映画があります。安部公房の選択眼は誠に通俗的・大衆的な選択眼では全くないので次のやうな感想を記録してゐます。かういふ自分を知らぬ、といふか、日本共産党員にまでなつてして自分と大衆との距離のあるのに不審を抱かずに、全く人間としては大衆ズレしてゐないところが安部公房の魅力であるのです。即ち、安部公房は無自覚に大衆とズレてゐる(即ち、安部公房の読者であるあなたは流行を追ふ大衆の一人ではないといふことの証明)。

(1) ブニユエル：忘れられた人々(1953年)

「不良防止の目的のためにつくられながら、結果としては逆に不良防止が不可能であることの証明になってしまった」映画。

(2) オーソン・ウェルズ：黒い罨(1958年)

客席はガラ空きだったが、「しかし、私は緊張のしづめで、久しぶりに映画的世界にひき

こまれたと思ったのである。」前にみた家族が「始終あくびのしどおしで、やがて半分も見ないで出ていってしまった。いくら家族づれとはいえ、ともかく大衆うけがするはずのギャング映画なのである。それが、わざわざ金をはらって入った客を一時間としぼりつけておけなかったというのは、よくよくのことにちがいない。」その後の安部公房の言葉は「このギャップに、私はいささか傷つけられた。」

この映画の主題：「主題は、あれこれの具体的な犯罪ではなく、まさに犯罪そのものにあつたのだ。けっきょく犯罪の監視人などではなく……とてもそんな力をもった者ではなく……（略）」「だいたい、悪はあつても悪人ない、というのがこの映画の主題なのだから、（略）」

映画の技法：このやうな映画が「もう個々の警官の悪は問題ではなく、ある社会体制のもとにおける法の性格が、根底からつつこまれなくてはならない。そのためには、単なるプロットの貼り合わせだけではどうにもならず、高次元の表現が求められるのだ。ここではじめて技術や様式が積極的な課題になってくる。「黒い罌」の異常に早い一早すぎるくらいのテンポも、主題から要求された必然的な形式だったのだと思う。」

作者の苦心のしどころ：「ここに作者側の矛盾と苦しみがある。観客を求めながら……能動的に求めているだけに……かえって観客から離れなければならないという、どうにもむつかしい立場にたたされるのだ。」「映画という大衆芸術には、このこのことはさげがたい運命なのだろうか。」「大衆憎悪は、芸術にとって、しばしば豊作のための大雪の役目をしてくれるものである。」

映画の技法：映画の中のストーリー上の問題の「解決は、ストーリーの中にはなく、ストーリーとして構成されうる枠づきの世界とはまた次元のちがった場所で、さぐられ表現される以外にないのだ。このストーリーという枠の外での表現のために、モンタージュという映画言語の発明もあつたわけだし、またこの発明をしたことで、映画が現代芸術のチャンピオンとして大きな可能性を約束されることにもなつたのではないか。」

この安部公房の映画技法論は、ストーリーの枠を超えて一次元上の映像表現とするために手段としてのモンタージュといふ技法があり、これによつて映画独自の様式に至るといふのが、安部公房の映画論であり同時に映画技法論であるといふことが解ります。即ち「技術や様式が積極的な課題」であるといふ上記安部公房の言葉の意味がこれです。技術はモンタージュ【A】、様式は時間の中で展開するストーリー【B】を超えた一次元上の様式である【C】といふこと。

安部公房は【B】の典型である男女の恋愛の要素をストーリーに入れて【C】に至らぬ出来の殊（こと）に悪い映画をメロドラマと呼んで失格の烙印を押してゐる。

(3) ミハイル・カラトゾフ (ソ連映画) : 戦争と貞操

「これはカンヌのグラン・プリ受賞作品だそうで、サドゥールあたりも絶賛しているようだが、私にはそれほどの成功作とは思えないのである。」

この映画は上記【C】に至らぬ映画であると【A】 【B】 【C】の関係に言及して断言してゐる。

(4) ルイ・マル: 死刑台のエレベーター (1958年)

映画の主題: 「主題の喪失とは、現実に対する能動的関心の喪失である。いま一つ、関心は失っていなくても、その関心を表現する方法を見失った場合だ。前者は問題にならないとして、後者の場合のような壁を、ではどうして打ち破ったらいいのか。私はやはり、ストーリー主義からの脱出を、その一つの方法として提案したい。」何故なら「ストーリーとはいうものは、現実を一つの型にはめこんだものである。ストーリーはかならず約束された型の中で円をつくって完結する。」「新しい映像芸術がこの古典的約束にしばられているなど、まったく意味のないことだ。ドキュメンタリーという、ストーリー的発想をまったく破壊するような方法さえ生み出した映画ではないか。」

ここまで読むと、安部公房が映画に期待した「裁かれる記録係」といふモデル映画と呼ぶべき映画の総称の名前を巡つてのプロット (ストーリーではない) が、如何なるものかが、あなたにもよく理解されるでせう。要するに小説で提唱した仮説設定の文学を、範疇を超えて安部公房は提唱してゐるのです。「裁かれる記録係」といふ題名の小説の本当の名前は『S・カルマ氏の犯罪』だと云へば、あなたにはよく通ずるでせう。あるひは『砂の女』といつてもよい。後者のエピグラフ「罰がなければ、逃げるたのしみもない。」の意味が、かうしていよいよ映画論との関係でも明らかになりました。前者の主人公S・カルマ氏は目の前の景色をそのまま全て眼の中から自分の空虚な即ち無時間の空間に吸い込んで記録する記録係なのであり、仁木純平も同様に、砂といふ存在、この存在を丸ごと自分の体に生理を通して滲み通らせて記録する「裁かれる記録係」であるといふ理由で、最後には家庭裁判所民事裁判官の名前で「審判」といふ名前の公文書によりその失踪が確定されるといふ裁きを受けるわけです。S・カルマ氏の場合には同様の存在の砂漠の中に永遠に、といふ意味は時間の存在しない垂直方向に成長する砂漠の砂と同質の素材からなる壁になつてしまふといふ、これが判決といふわけです。この場合、壁とは、次の形象がそのまま次の存在への立札であるといふ事と次第は『砂の女』の「審判」書と同じです。読者はこれらの判決と同じものとして往々にして「明日の新聞」の登場を知つてゐるでせう。このやうに読んで来ますと、「明日の新聞」もまた判決文なのであり、このことは戯曲『友達』の最後に誰の目にも顕著です。

(5) 本多猪四郎: 美女と液体人間 (安部公房曰く「日本製の空想科学映画」今でいふSF映画です。1958年)

映画の主題：「この場合、主題は、液体人間におそわれる良民の悲劇ではなどではなく、放射能によって変形した液体人間の運命そのものではないのだろうか。むしろ液体人間を、現実の批判者にしたてあげるのが、当然の道筋だった。」「ここにも明らかに主題の喪失がある。主題を、単なる道徳的なお説教だと思いこむほど、主題に対する混乱と盲目が支配しているのだ。いわゆる問題映画といったような狭い意味ではなく、主題の発見と回復をあらためて強調したい。」

ここにも主張されてゐる主題は、仮説設定の文学、または仮説設定の映画である。「主題を、単なる道徳的なお説教だと思いこむほど、主題に対する混乱と盲目が支配しているのだ。」といふ言葉などは、本居宣長の源氏物語論と寸分変はらないではないか。

追記：「裁かれる記録係」と此の評論で呼ばれてゐる書記係の言葉による記録は、20世紀に安部公房を論ずる時には常に不完全な理解のままに引用されてゐたハイデッガーの哲学用語を正しく用ひれば、時間の中にあつて其れが故に常に断片的であることを免れないと云ふ現存在に関する記録なのであり、他方これに対して時間の存在しない、S・カルマ氏の胸の中の空虚での記録や仁木純平の体の中にある生理的な感覚を通じた記録は、《砂漠》と云ふ存在または砂漠と云ふ《存在》に関する記録だと云ふことなのです。このやうに考へれば、何故安部公房が[ストーリー（時系列の事実の発生）→モンタージュ（意図的な現実の断片化・現実が無意味になるまでの徹底的な分解[註4]）→次元上の様式（時間を捨象した此れも現実）]と云ふ【A】→【B】→【C】を唱へるのか、即ち仮説設定の映画論を唱へるのかが理解できることでせう。

[註4]

この分解と其の論理は、安部公房スタジオの演技指導論ニュートラルの体得指導法に同じです。

このやうに、安部公房の読者であるあなたが「砂漠の思想」としての映画論を理解することができたならば、あなたには併せて、[ストーリー→章節の建て方→プロット]または作品の発想と構想としては時系列的な順序は逆になるので[プロット→章節の建て方→ストーリー]と云ふこととなりますが、【A】・【B】・【C】の配列について考へてもらひたい。さうすれば、この考へ方が、読者にはほとんど理解されることがないと私には思はれる初期安部公房の『無名詩集』や『没我の地平』中の詩篇および其の他全集第1巻所収の詩篇を其のまま理解することに役立つことができ、安部公房といふ、作家である「以前」に人間としてある此の人間の人生の全体を知ることができるからです。そして、誰のものでもないあなたにしかない人生を生きながら、あなた以外の誰にも書けない安部公房論を書いてもらひたい。それには、まづ自分の人生の【A】・【B】・【C】の配列を考へてみるのが大事です。即ち、時間を捨象したら、一体どんな自分の人生が待つてゐると想像できるものか。即ち、時間と云ふ概念の下位概念である歴史と云ふものを捨象したならば、一体どんな自分の人生が実現するものなのか。ここまで考へて来たら、あなたは安部公房と同じく黙つてゐても此の作家が隠すほどに大好きだったトポロジーと云ふ数学の接続と変形の言語論理であなたの人生を超越論的に「いつの間にか」考へてゐることになるのです。即ち、幾何学的に位相でものを考へてゐる。歴史を捨てたら孤独になつてしまふ？そんな程度の歴史など捨ててしまへ。安部公房がゐるではないか。

二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック
塔の文学

岩田英哉

目次

塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と小林秀雄の塔

眠たい頭といふ愉楽をくれる国で其の国はあつたのだ
その国は半眼まなこの前に波打つあまたの夢でできてゐるのだが、
そして其の国は、通り過ぎ行くあまたあまたの雲の中に在る雲の日とて無い賑やかなあまたあまたの御城からできてゐてゐるのだが、
ある夏の空を囲んで永遠に光輝くために通り過ぎる其の雲々の中に、その国は立つてゐるのだが。
(ワシントン・アーヴィング著『スケッチ・ブック』所収「スリーピー・ホロウの伝説」のエピグラムの詩『Castle of Indolence (無為の城)』 [拙訳])

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔

漱石の塔は「倫敦塔」であり、鷗外の塔は「沈黙の塔」です。この二つの塔は水辺に立つてゐる。前者はイギリスはロンドンのテムズ川のほとりに、後者はどこの国の何といふ海辺とは知られずに。後者の塔については、鷗外の同じ題名の短編があり其の第一話といふべき区切りが短いので以下に全文を引いて、読者の閲覧に供したい。区切りと敢へて呼ぶのは、文字通りに区切りを示す記号*が三つ、章と章の間に散つた小さな花のやうにあしらはれてゐるからです。

「高い塔が 夕の空に聳えている。

塔の上に集まっている鴉が、立ちそうにしてはまた止まる。

そして 啼き騒いでいる。

鴉の群れを離れて、鴉の振舞を憎んでいるのかと思われるように、鷗が二三羽、きれぎれの啼声をして、塔に近くなったり遠くなったりして飛んでいる。

疲れたような馬が車を重げに挽(ひ)いて、塔の下に来る。何物かが車から卸されて、塔の内に運び入れられる。

一台の車が去れば、次の一台の車が来る。塔の内に運び入れられる品物はなかなか多い

のである。

己（をれ）は海岸に立ってこの様子を見ている。汐（しほ）は鈍く緩く、ぴたりぴたりと岸の石垣を洗っている。市の方から塔へ来て、塔から市の方へ帰る車が、己の前を通り過ぎる。どの車にも、軟い鼠色の帽の、鍔を下へ曲げたのを被った男が、馭者台に乗って、俯向き加減になっている。

不精らしく歩いて行く馬の蹄の音と、小石に触れて鈍く軋る車輪の響とが、単調に聞える。

己は塔が灰色の中に灰色で画かれたようになるまで、海岸に立ち尽していた。」

この沈黙の塔についての文章は、どこの国の何といふ塔といふやうな具体性はないので、象徴的な無名の塔になつてゐる。さうなつてゐるのは、次の区切りにあるMarabar hill（マラバアヒル）といふ土地のParsi（パアシイ）族に関係した塔の話として語られてゐるところを読むと、逆に其のやうな塔だといふことに了解されるといふ意味です。鷗外は最初からこの順序を読者に期待してかう書いた。この土地の名前は調べるとインドにありますが、鷗外が果たして此のインドの土地を意識して書いたかどうかは定かではありません。さうであつたとしても、いづれにせよ此の塔の描き方は上述の通りの象徴的な塔となつてゐるのです。言葉を替へれば、鷗外の此の明治四十三年（1910年）十一月に発表された短編は、21世紀の今の日本のみならず、そのまま世界にも通用する普遍性を備へるといふことです。支那古代でいへば焚書坑儒、20世紀のアメリカのSF文学で云へば、レイ・ブラッドベリーの『華氏451度』の世界です。安部公房の文学の世界に即して云へば、名前がないのですから、いはば存在の塔です。存在といふことから時間は塔内には存在しないので、そこでは（外部の時間の中に生きた人間から見れば）人間はみな死んでゐる。

さう、その通り、この沈黙の塔には殺された人間の死体が運ばれて来るのです。さうであれば、鴉は死体を啄（ついば）みに、またこの不吉を打ち消すやうにして飛ぶ鷗は、海といふ生命の象徴であるといふことに、この文脈では、なります。前者は黒い色を、後者は白い色をした鳥である。話者である者はあるホテルに入つて行つてロビーで新聞を読む既知の男と次のやりとりをする。

この男曰く「また 椰子の殻に爆弾を詰め たのが二つ三つあつたそうですよ。」

話「革命党ですね。」

（略）

話「へんな塔のある処へ 往つて見て来ましたよ。」

男「Malabar hill でしょう。」

話「あれはなんの塔ですか。」

男「沈黙の塔です。」

話「車で塔の中へ運ぶのはなんですか。」

男「死骸です。」

話「なんの死骸ですか。」

男「Parsi 族の死骸です。」

話「なんであんなに沢山死ぬのでしょうか。コレラでも流行っているのですか。」

男「殺すのです。また二三十人殺したと、新聞に出ていましたよ。」

話「誰が殺しますか。」

男「仲間同志で殺すのです。」

話「なぜ。」

男「危険な書物を読む奴を殺すのです。」

話「どんな本ですか。」

男「自然主義と社会主義との本です。」

話「妙な取り合せですなあ。」

男「自然主義の本と社会主義の本とは別々ですよ。」

話「はあ。どうもよく分かりませんなあ。本の名でも知れていますか。」

男「一々書いてありますよ。」

脚長は卓の上に置いた新聞を取って、広げて己の前へ出した。己は新聞を取り上げて読み始めた。

以下男の読んでみた新聞記事「パアシ族の 血腥き争闘」の内容が新しい章を設けて語られていますが、短いものですので一度青空文庫でお読みください：https://www.aozora.gr.jp/cards/000129/files/3336_23054.html

何故こんなことになつたか。それは「パアシ族の少壮者は外国語を教えられているので、段々西洋の書物を読むようになった。英語が最も広く行われている。しかし仏語や独逸語も少しずつは通じるようになっていく。この少壮者の間に新しい文芸が出来た。それは主として小説で、その小説は作者の口からも、作者の友達の口からも、自然主義の名を以て吹聴せられた。Zolaが Le Roman expérimental で発表したような自然主義と同じだとは云われぬが、また同じでないとも云われぬ。兎に角因襲を脱して、自然に復ろうとする文芸上の運動」が起きたからである。そして、ことは文学の自然主義のみにとどまらなかつた。海外から流入する思想には、毎度お馴染みのチリ紙交換、社会主義、共産主義、無政府主義者、これらと革命・革命者も入つて来たのです [註1]。

[註1]

夏目漱石は、この鷗外の此の社会現象の公正なる記述による分析と其の指摘した問題に関する解決策について、『イズムの功過』と題して短い文章を書いてある（「東京朝日新聞」明治四十三年七月二十三日；『漱石人生論集』講談社学術文庫38ページから41ページ）。歴史と過去と未来と、人文学と科学と、精神と自然と、人間のイズムに関する考察は、今も新しい。といふことは、今の私たちは依然として漱石・鷗外の明確に提起した問題を解決できていないといふ事である。青空文庫『イズムの功過』：https://www.aozora.gr.jp/cards/000148/files/2314_13564.html

この新聞記事の中に書かれてあるパアシイ族を日本人に読み替へれば、今年2020年より110年前の明治時代に書いた森鷗外の文章は今でも其のまま現代である。否、もつと酷い状態になった日本の国であると当時と今を比較してよく解ると同時に、ここに鷗外の活写した事態の分析は、その正確な海外思想に関する知識の理解が広く行きわたつてゐることに驚くとともに（こんなジェネラリストは今の日本にはなかなかゐないだらう）、今の日本の政治・経済・文化の情勢に、何も割り引くことなく適用できるといふことは、やはりこの150余年の私たちの生活の劣化を証明してゐることが判ります。なるほど、証明とは彼我の比較によつてなすものであつた。そして、最後の三行：

「芸術も学問も、パアシイ族の因襲の目からは、危険に見えるはずである。なぜといふに、どこの国、いつの世でも、新しい道を歩いて行く人の背後には、必ず反動者の群がゐる隙を窺つてゐる。そしてある機会に起つて迫害を加える。ただ口実だけが国により時代によつて変る。危険なる洋書もその口実に過ぎないのであつた。」

とある、この引用の「芸術も学問も」水準が余りに劣化したので、およそ日本語族にとつて弾圧に足るものであるのですらないにもかかはらず、それを良いことに逆にゴッコ芸術もゴッコ学問も日本語族を（語彙は違ふにせよ）反動者の群れと呼び、「ある機会に起つて迫害を加える。ただ口実だけが」、国は変はず同じ日本の国内にあつて其の時代によつても変はず、「危険なる」（洋書ではなく今度は）和書が「その口実に過ぎないので」あるといふまでに正反対の事態になつてしまつたといふことであり、日本国家が法治国家ではなく放置国家であることが国の内外に知られてゐるといふことである。今では、海外から流入する思想には毎度お馴染みのチリ紙交換、社会主義、共産主義、無政府主義者、これらと革命・革命者が、依然として昔の名前でマルクス主義の旗印の下に政治と経済にあつては今や中国共産党が大手を振つて地球上を暴れ廻り、同じグローバリズムが、ウォール街とロンドン・シティの国際金融資本主義が、EU欧州共同体が、そして言葉狩りと云ふべきポリティカル・コレクトネスがフェミニズムが、物理的暴力についてはANTIFAがBlack Lives Matterが、と名前を変へ、手を変へ品を変へて、現代の国内外の世の中に跳梁跋扈するやうになつてしまつた。共産主義者といふ赤が、正反対は補色であるから緑といふことにすると、緑狩りする時代になつてしまつた。

しかし、政治の問題は横に置いて本題に戻ります。私のお話したいのは、文学の塔といふ誠に雅やかなる言語藝術の話であつて、こんなロクでもないパアシイ族の親戚筋である未開土人たちの話ではない。森鷗外も良い名前を見つけたものだ。クルクルバーシイ族の群れ、これが現代である。

安部公房論の中でしばしば言及したことですが、その作家の作品には表通りの作品と裏通りの作品があります。鷗外ならば、『舞姫』から始まる三部作から晩年の『渋江抽斎』に至る表街道筋に立つ大柄な堂々たる作品群です。裏通りの作品は、このやうな小品で、表通りから少し小路を入つて目立たないしもた屋みたいな作品です。安部公房ならば前者は

『S・カルマ氏の犯罪』『砂の女』や『箱男』、対して後者は初期安部公房の『赤い繭』『魔法のチョーク』のやうな短編小説といふことになるでせう。鷗外の『沈黙の塔』は後者であり、漱石の『倫敦塔』もまた後者です。リルケが様々な詩篇で目立たぬやうに小さなといふ形容詞を付けて繰り返し歌つたやうに、小さきものに真実も美も宿る。

ここで、後述する漱石の「倫敦塔」と鷗外の「沈黙の塔」を比較して、それぞれの小品の性格を明らかにしたい。さう思つて考へてみると、これが今に至る日本近代文学の二本の道筋になつて現れて、この国の明治以来の文学のデコボコ道がきれいに舗装されるのでした。文学の道が舗装整備されたならば、日本の国の道もまた舗装整備されぬことがあらうか。

沈黙の塔とは上述の通りで、これは近代国家の塔といふことができます。それもこの国家はどうも未開土人の国であつて、この土人たちが勤勉で外国語をよく学び海外思想を以て新たに建国した国家らしい。鷗外はやマト族といつてはゐない〔註2〕。そして、近代国家の塔といふ言葉の意味は、塔そのものが国家であるといふ隠喩（メタファ）として捉へることもよく、また近代国家が異端として排除した者たちを幽閉し、その存在を明るい社会から隠蔽し幽閉するための施設と考へてもよいでせう。勿論いふまでもなく、日本の近代国家は共産党の支配下にはなく、従ひ、塔とは強制収容所の隠喩ではない。しかし、近代国家との関係で立ち現れた此れは塔といふ垂直方向に、そして海辺に立つ塔であると心得へた上で、先へ進みます。垂直といふ方向には時間は存在しない。ですから、この沈黙の塔は、共産主義であらうが民主主義であらうが、依然として世界中の近代国家の体裁をとつた国家の隠喩として今でも生きてゐます。

〔註2〕

安部公房の最後の長編『カンガルー・ノート』第6章「風の長歌」に、縄文人が出てきて次のやうに言ふと云ふのは誠に明治維新と先の戦争後と云ふ（三島由紀夫の命名で云へば、今となつては遺言状ともいふべき『文化防衛論』の冒頭にいふ）二つの「断絃の時」にあつて、鷗外と安部公房が同じ着想を無意識にでも得たと云ふことは興味深い。何故なら、これは二人だけの問題ではないと思はれるから。

第6章「風の長歌」と第7章「人さらい」について云へば、「安部公房は明らかに最後の二つの章では、この二つのこと、即ち汎神論的存在概念と古代の感 覚と論理の結合を意図してゐることを示してゐます。

それは、第6章：風の長歌と題してある以上、この長歌は万葉時代以来の古代からの歌謡であること、さうして長歌には反歌が続き、従ひ第7章は人さらいと題した反歌であること、しかし、反歌といふ文字は「空白の論理」によつて文字にはせずに、それだけ一層本質的な章となしてゐること、このことです。このことは、第6章に登場する「縄文人」と呼ばれる登場人物が「万葉集にも出てくる、毛人つてやつさ、大和民族なんかよりもずっと古くから日本に住み ついてゐる、名門の出」の髭毛の毛深い登場人物であることが、このことを暗示してゐます。」（『『カンガルー・ノート』論（16）』（もぐら通信第82号）の「5。5。4 安部公房の長歌」より）

漱石の「倫敦塔」は、これに対して、個人の塔です〔註3〕。漱石がイギリスに文部省に派遣された留学生として二年住んだロンドンにある、テムズ川に実際に存在して今も立つ有名な歴史的な塔です。鷗外の沈黙の塔は歴史を切断し抹殺しようとする時間のない空間的な塔です。ある時個人夏目金之助は此の塔を尋ねた。漱石の塔は歴史的な、さう云ふ意味では時間の塔です。この漱石個人の塔も、垂直に立つ塔である以上、その塔の歴史的な性格を内に含んでゐるとはいへ、近代的個人の隠喩として今も生きてゐます。この二筋の道を辿りながら、近代的個人とは何かと云ふ問と答については後述します。さういへば、大日本帝国陸軍の軍医であつた森鷗外もまた死ぬときには個人として、即ち遺言によつて「石見人森林太郎」として其の墓を建ててべく没したのです。これは一体どう云ふことでせうか。

〔註3〕

江藤淳著『決定版 夏目漱石』（新潮文庫版）によれば「しかし、帰国後間もなく、漱石は第一高等学校教授に任じられ、（略）以後数年間は、漱石が〔引用者：ロンドン留学で〕粉々に砕かれた自己のidentityを再構成しようとして苦闘した時期である。この間に、彼はいくつかのロマンチックな短編小説——「倫敦塔」「薤露行」「幻影の盾」など——を書いたが、これらは作者の非理性的かつ無定型で強力な自我の衝動に対する恐怖を露わにしているという点で、興味深い作品である。同時に彼は全作品中もっとも広く読まれている滑稽小説「吾輩は猫である」と「坊ちゃん」を書いた（同書223ページ）。私は、これに『夢十夜』と『硝子戸の中』を加へたい。江藤淳氏は反対しないであらう。

安部公房の読者にはお馴染みのことですが、閉鎖空間の中に入る直前に主人公は例外なく意識朦朧となり、または意識混濁し（『カンガルー・ノート』の主人公の地獄巡りを思ふこと）、自己を喪失して、記憶を失ふといふ事態が出来ます。それと同じことが以下の『倫敦塔』といふ短編の冒頭の引用で判ります。といふことは、私たちは『倫敦塔』といふ作品を『箱男』、否、前者の話者を後者の主人公箱男として読むことができると云ふことです。それに何よりも、倫敦塔は閉鎖空間です。そして、沈黙の塔も塔である限り、これもまた閉鎖空間である。といふことは、閉鎖空間としての塔が、また塔といふ閉鎖空間が、即ち国家と個人の閉鎖空間の二つが塔の形をして幕末・明治維新以来今日まで、日本の近代の歴史の流れに立ち続けて今日に至るといふわけです。即ち、文学の問題のみならず一般的なヨーロッパ近代の影響に直面して生きなければならない近代の国家と個人の問題に対する問題提起者および解法者として、二筋の道の出発点に漱石鷗外といふ二人の文豪がある。この理解の上に先を急ぎます。漱石の倫敦塔の冒頭です。漱石が異邦人として道に迷ひながら倫敦塔に至るまでの文章が実にいい。また塔内に足を入れたあとの叙述も、塔の場所の性格に相応しく時間は消滅して、倫敦塔で処刑された幼い王子二人が漱石の目の前で生きてゐるのです。話者の語る話に過去も現在もなく、過去が現在であり現在が過去である。過去が現在なら未来も現在であり、未来もまた過去である。超越論の世界です。倫敦塔は漱石自身であり且つ漱石の文学世界であることが読むと判ります。

そして、倫敦塔には白い鷗が飛んでゐて、鴉はゐない。もし鴉をいふならば、倫敦塔の闇の色が鴉の色であるのみならず、この塔に幽閉されて殺される運命にある二人のいたいたいな王子も鴉を見てゐる。鷗外の塔と漱石の塔では、鳥の黒白の関係が塔の内部と外部で平

灰が合つてゐる。さて、夏目金之助は、

「二年の留学中只一度倫敦塔を見物した事がある。其後再び行かうと思つた日もあるが止めにした。人から誘はれた事もあるが断つた。一度で得た記憶を二返目に打ち壊すのは惜しい。三たび目に拭ひ去るのは尤も残念だ。「塔」の見物は一度に限ると思ふ。

行つたのは着後間もないうちの事である。其頃は方角もよう分からんし、地理杯（など）は固（もと）より知らん。丸で御殿場の兎が急に日本橋の真中へ抛り出された様な心持であつた。表へ出れば人の波にさらはれるかと思ひ、家（うち）に帰れば汽車が自分の部屋に衝突しはせぬかと疑ひ、朝夕安き心はなかつた。此響、此群衆の中に二年住んで居たら、吾が神経の繊維も遂ひには鍋の中の麩海苔の如くべとべとになるだらうと、マクス・ノルダウの退化論を今更の如く大真理と思ふ折さへあつた。

しかも余は他の日本人の如く紹介状を持つて世話になりに行く宛もなく、又在留の旧知としては無論ない身の上であるから、恐々（こはごは）ながら一枚の地図を案内として毎日見物の為若くは用達（ようたし）の為出あるかねばならなかつた。無論汽車へは乗らない。馬車へも乗れない。滅多な交通機関を利用しようとする、どこへ連れて行かれるか分からない。此の広い倫敦を蜘蛛手十字に往来する汽車も馬車も電気鉄道も鋼條鉄道も余には何等の便宜をも与へる事が出来なかつた。余は已むを得ないから四つ角へ出る度に地図を披いて通行人に押し返されながら足の向く方角を定める。地図で知れぬときは人に聞く、人に聞いて知れぬ時は巡査を探す、巡査でゆかぬ時は又他の人に尋ねる、何人でも合点の行く人に出逢ふ迄は捕へては聞き呼び掛けては聞く。かくして漸くわが指定の地に至るのである。

「塔」を見物したのは恰も此方法に依らねば外出の出来ぬ時代の事と思ふ。（略）

此倫敦塔を塔橋の上からテムス河を隔てて眼の前に望んだとき、余は今の人か将（はた）古への人かと思ふ迄我を忘れて余念もなく眺め入つた。冬の初めとはいひながら物静かな日である。空は灰汁桶（あくをけ）を掻き交ぜた様な色をして低く塔の上に垂れ懸かつて居る。壁土を溶かし込んだ様に見ゆるテムスの流れは波も立てず音もせず無理矢理に動いて居るかと思はるゝ。帆懸舟が一隻塔の下を行く。風なき河に帆をあやつるのだから不規則な三角形の白き翼がいつ迄も同じ所に停まつて居る様である。伝馬（てんま）の大きいのが二艘上つて来る。只一人の船頭が鱸（とも）に立つて艚（ろ）を漕ぐ、是も殆ど動かない。塔橋の欄干あたりには白き影がちらちらする、大方鷗であらう。見渡した處（ところ）凡ての物が静かである、物憂げに見える、眠つて居る。皆過去の感じである。さう其中に冷然と二十世紀を軽蔑する様に立つて居るのが倫敦塔である。汽車も走れ、電車も走れ、苟（いやしく）も歴史の有らん限りは我のみは斯（か）くてあるべしと云はぬ許（ばか）りに立つて居る。其の偉大なるには今更の様に驚かれた。此建築を俗に塔と称（とな）へて居るが塔と云ふは単に名前のみで実は幾多の櫓（やぐら）から成り立つ大きな地城（ぢしろ）である。並び聳（そび）ゆる櫓には丸きもの角張りたつもの色々の形状はあるが、何（いつ）れも陰気な灰色をして前世紀の記念を永劫に伝へんと誓へる如く見える。九段の遊就館を石で造つて二三十並べてさうして其れを虫眼鏡で覗いたら或（あるひ）は此「塔」に似たものが出来上がりはしまいかと考へた。余はまだ眺めて居る。セピ

ヤ色の水分を以て飽和したる空気の中にぼんやり立つて眺めて居る。二十世紀の倫敦がわが心の裏から次第に消え去ると同時に眼前の塔影が幻の如き過去の歴史を吾（わが）脳裏に描き出して来る。朝起きて啜（すす）る渋茶に立つ烟（けむり）の寝足らぬ夢の尾を曳く様に感ぜらるゝ。暫くすると向う岸から長い手を出して余を引つ張るかと思はれて来た。今迄佇立して身動きもしなかつた余は急に川を渡つて塔に行き度（た）くなつた。長い手は猶々強く余を引く。余は忽（たちま）ち歩を移して塔橋を渡り懸けた。長い手はぐいぐい牽（ひ）く。塔橋を渡つてからは一目散に塔門迄馳せ着けた。見る間に三万坪に余る過去の一大磁石は現世に浮遊する此小鉄屑を吸収し了（をは）つた。門を入つて振り返つたとき、

憂（うれひ）の国に行（ゆ）かんとするものは此門を潜れ。
永劫の呵責に遭はんとするものは此門をくゞれ。
迷惑の人と伍せんとするものは此門をくゞれ。
正義は高き主を動かし、神威は、最上智は、最初愛は、われを作る。
我前に物なし、只無窮あり、我は無窮に忍ぶものなり。
此門を過ぎさんとするものは一切の望（のぞみ）を捨てよ。」

ここから先漱石の筆は、右手に逆賊門を潜り、次いで「左へ折れて血塔の門に入る。」この血塔の門を潜つた後には話者の意識は無意識裡に現在と過去の閼（しきり）なく、過去に此の塔で殺された「二人の小児が見えてきた。一人は十三四、一人は十歳（とを）位と思はれる。幼き方は床に腰をかけて、寝台の柱に半ば身を倚（もた）せ、力なき両足をぶらりと下げて居る。右の肱（ひぢ）を、傾けたる顔と共に前に出して、年嵩なる人の肩に懸ける。年上なるは幼き人の膝の上に金にて飾れる大きな書物を開けて、其の開けてある頁（ページ）の上に右の手を置く。象牙を揉んで柔らかにしたる如く美しい手である。二人とも鳥の翼を欺く程の黒き上衣（うはぎ）を着て居るが色が極めて白いので一段と目立つ。髪の色、眼の色、偕（さ）ては眉根鼻附きから衣装の末に至る迄二人（ふたり）共殆ど同じ様に見えるのは兄弟だからであらう。

兄が優しく清らかな声で膝の上なる書物を読む。

「我が眼の前に、わが死ぬべき折の様を想ひ見る人こそ幸あれ。日毎夜毎に死なんと願へ。やがては神の前に行く吾の何を恐るゝ……」

弟は世に憐れなる声にて「アーメン」と云ふ。折から遠くより吹く木枯らしの高き塔を揺るがして、一度（ひとたび）は壁も落つる許（ばか）りにゴーと鳴る。（略）」

倫敦塔に渡る橋の前には鷗が飛び、塔の中に入ると鴉の黒がゐる。鷗外の塔の中も夥しい大人の死体が重ねられてゐれば、漱石の塔もまた、しかし正反対に、若い二人の小児の死体となる未来が事実として、過去の中に待つてゐる。ここで更に二つの塔を対比すれば、漱石の塔は超越論の塔であり、夢幻の塔、因果律を離れた塔であり、対して鷗外の塔は写実的な、筆の及ぶ限り、現実の今の時間の塔であるか、既に起きた事実を報ずる「新聞記事」の散文的な因果律で書かれ得る時間の中に立つ塔である。

後者は近代ヨーロッパに原因して文明開化した結果建てねばならず、建てる事になった塔であり、前者は個人が異国の地で経験した事を（帰国後に）満身創痍のまま建てた塔である。塔である以上、また塔の有する性格上、ともに禍福いづれにせよ記念碑と云ふべき塔である。この二つの塔は、別に二人の、また私たちの、過ちなどである筈はないが、しかし、二度と繰り返しませんからどころではなく、広島にアメリカによる原爆投下で虐殺された被害者の石碑を、誰が殺し誰が殺されたのかと云ふ事実に関する主語も述語も不明確な碑文を書いて建てても尚、そして書かれた文の主語と述語が其のやうに不明確である事が原因で尚、今日まで愚かにも繰り返して来た結果の歴史的事実の連続で、日本の近代とは、あつたのではないか？広島に立つ慰霊碑といふ名前の自己欺瞞と自己偽善の碑は従ひ、少しも死者の慰霊になどなつてゐないにも拘らず、毎年8月9日に慰霊祭の振りをして、一国の総理大臣まで出席し続け、あまつさへ子供まで利用をして弔辞を読ませ、国家と個人の自己を誤魔化し続けて来た先の終戦後の75年であり、さうであればゴッコ遊びと江藤淳の喝破した通りの、同時に文化を抛擲した守銭奴たちの75年であつたのではないか？

本題に戻ります。ここで掲げるのは早過ぎるので後掲しますが、やはり言葉の道は祭り事に通じてゐる。政治には通じてゐないが、祭りコトには通じてゐるのです。本居宣長に戻つて、やはり事ではなく、ことと文字では書くべきです。さうしないと、私のところが伝はらない。結論を云へば、三島由紀夫の云ふ二度の「断絃の時」に、日本列島の上で、私たちの時間と空間が外部の暴力によつて、生木が裂かれるやうに二つに引き裂かれたのです。

これを、漱石は、内発と外発と云ふ事由の命名をして明らかにした〔註4〕。しかし、この漱石の用語を用ひて考へれば、日本の伝統と歴史に由来したが故と思ひ内発と信じたものが、外来思想の無条件な信頼と信用即ち妄信であり盲信であつた。外発と明瞭に思へたものも、批評と批判（共にcritique・Kritik）を欠いた外来思想の無条件な信頼と信用であれば、やはり此れも外来思想の無条件な信頼と信用即ち妄信であり盲信であつた。いづれにせよ、前者もまた実は日本の伝統と歴史に依るものではなかつた。しかし、それをさうだと思ひ込もうとして来たのが、日本の近代と呼ばれる此れまでの時間であつたのではないのだろうか。鷗外の旺盛なる知力の及ぶ限りの理解の、哲学と文学と思想に関する理解の、如何に正確無比であるかといふ事は『沈黙の塔』をお読みになれば文字ではつきりと書いてある。鷗外も漱石も共に、永井荷風の用語で云へば「新帰朝者」であり、江藤淳の用語で云へば漱石は「帰つて来た者」である。通用する用語として、帰朝者と単に呼んでもよく、帰つて来た者と呼んでも良い。一体、この帰つて来た者は、遅れて帰つて来たのであろうか、それとも早過ぎて帰つて来たのであろうか。帰つて来たのが遅すぎたのであろうか、早過ぎたのであろうか。浦島太郎は依然として現代に生きてゐるのではあるまいか。考へてもらひたい。

〔註4〕

この分類を示した講演は『現代日本の開化』（明治四十四年八月於和歌山）にある。以下青空文庫からの引用です：https://www.aozora.gr.jp/cards/000148/files/759_44901.html

「それで現代の日本の開化は前に述べた一般の開化とどこが違うかと云うのが問題です。もし一言にしてこの問題を決しようとするならば私はこう断じたい、西洋の開化（すなわち一般の開化）は内発的であって、日本の現代の開化は外発的である。ここに内発的と云うのは内から自然に出て発展するという意味でちょうど花が開くようにおのずから蕾が破れて花卉が外に向うのを云い、また外発的とは外からおつかぶさった他の力でやむをえず一種の形式を取るのを指したつもりなのです。もう一口説明しますと、西洋の開化は行雲流水のごとく自然に働いているが、御維新後外国と交渉をつけた以後の日本の開化は大分勝手が違います。もちろんこの国だって隣づき合がある以上はその影響を受けるのがもちろんの事だから吾日本といえども昔からそう超然としてただ自分だけの活力で発展した訳ではない。ある時は三韓また或時は支那という風が大分外国の文化にかぶれた時代もあるでしょうが、長い月日を前後ぶっ通しに計算して大体の上から一瞥して見るとまあ比較的内発的の開化で進んで来たと言えましょう。少なくとも鎖港排外の空気で二百年も麻醉したあげく突然西洋文化の刺戟に跳ね上ったぐらい強烈な影響は有史以来まだ受けていなかったと云うのが適当でしょう。日本の開化はあの時から急劇に曲折し始めたのであります。また曲折しなければならぬほどの衝動を受けたのであります。これを前の言葉で表現しますと、今まで内発的に展開して来たのが、急に自己本位の能力を失って外から無理押しに押されて否応なしにその云う通りにしなければ立ち行かないという有様になったのであります。それが一時ではない。四五十年前に一押し押されたなりじつと持ち応えているなんて楽な刺戟ではない。時々には押し刻々に押し刻々に今日に至ったばかりでなく向後何年の間か、またはおそらく永久に今日のごとく押されて行かなければ日本が日本として存在できないのだから外発的というよりほかに仕方がない。その理由は無論明白な話で、前詳しく申上げた開化の定義に立戻って述べるならば、吾々が四五十年間始めてぶつかった、また今でも接触を避ける訳に行かないかの西洋の開化というものは我々よりも数十倍労力節約の機関を有する開化で、また我々よりも数十倍娯楽道楽の方面に積極的に活力を使用し得る方法を具備した開化である。粗末な説明ではあるが、つまり我々が内発的に展開して十の複雑の程度に開化を漕ぎつけた折も折、図らざる天の一方から急に二十三十の複雑の程度に進んだ開化が現われて俄然として我らに打ってかかったのである。この圧迫によって吾人はやむをえず不自然な発展を余儀なくされるのであるから、今の日本の開化は地道にのそりのそりと歩くのでなくって、やっとうと懸けてはぴょいぴょいと飛んで行くのである。開化のあらゆる階段を順々に踏んで通る余裕をもたないから、できるだけ大きな針でぼつぼつ縫って過ぎるのである。足の地面に触れる所は十尺を通過するうちにわずか一尺ぐらいなもので、他の九尺は通らないのと一般である。私の外発的という意味はこれでほぼ御了解になったろうと思います。そういう外発的の開化が心理的にどんな影響を吾人に与うかと云うとちょっと変なものになります。（略）」

鷗外はドイツからの帰朝者である。漱石はイギリスからの帰朝者である。荷風はフランスとアメリカからの帰朝者である。江藤淳はアメリカからの帰朝者である。三島由紀夫は、欧米は問はず、ギリシャからの帰朝者である。小林秀雄は帰朝者ではない。安部公房に至っては帰朝者ですらない。今風に云へば帰国子女であり、日本の都市と風土を知らずに大陸で育つた日本人である。

かうして考へて来て、ここで日本の近代文学に関する見取り図を描くと、次のやうになる。

- (1) 鷗外と漱石の塔 [二つの塔]
- (2) 明治維新後と大東亜戦争後の断絃の時 [二つの断絃の時]
- (3) 日本人に起きた時間と空間の暴力的な分裂 [精神の二つの分裂]
- (4) 外来・内来思想に対する批評・批判の欠如・欠落 [二つの批評の欠如]
- (5) 帰朝者（知識人）と非帰朝者（庶民）の分裂 [日本人の二つの分裂]

(6) 江戸と諸藩の分裂〔首都東京と各国（くに）の二つの分裂〕：分裂の原因は参勤交代の廃止である。

この様に六つに分類してみると、今更ながら、インドのMarbar hillに住むパアシイ族であらうが、日本にみながら外国人の振りをするクルクルパーシイ族であらうが、帰朝者であらうが、日本人は云ふ迄もなく、国家の格を以て国内外の政治的な現実の情勢や思想を論ずる事が如何に大変な事業であつたかと云ふ事が判ります。確かに漱石のいふ通りに、文学は男子一生の事業である。男子一生の事業とは、漱石に倣へば、二つの塔の分裂を一つに融合して一次元上の次元で一つにする事を意味してゐる事が、これも、判る。さうであれば、文学の夢幻なる雲の中に立つ一つの塔から眺めれば、政治と経済と伝統（歴史と文化は伝統に含まれる）の世界でも同様であると思はれる。求めらるべきは三好達治の詩：

太郎を眠らせ 太郎の屋根に雪降りつむ
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪降りつむ

倫敦塔も沈黙の塔も共に、太郎と次郎の屋根に降りつむ雪のやうに自然の中で一つ屋根の下に静かに眠るものでありたいが。さうすれば、二つの塔は誠に慰霊の塔となり石碑となるであらう。三島由紀夫の『春の雪』も「春の雪」となり、遂には地の文に溶け入つて春の雪と書ける雪とならう。初期安部公房ならば《春の雪》と返へつて書くかも知れないが〔註5〕。

〔註5〕

安部公房の発明した汎神論的存在論の記号については、初期安部公房論に詳述しました。『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』（もぐら通信第56号から第59号）をお読み下さい。

2。江藤淳の塔と三島由紀夫の塔

(以下次号に続く)

サンチョ・パンサを求めて

(10)

Black Lives Matterとは何か

岩田英哉

貴君の読んで感想をよこせと云ふメラニー・フィリップスといふ女性の書いた当該記事を読みました：<https://www.melaniephillips.com/war-against-west-its-defender/>

記事の題名は「THE WAR AGAINST THE WEST, AND ITS DEFENDER」（「西側に反対する戦争、そして其の防衛者」）

ざっと記事に目を通してメモしたところは以下の通り。私のこの記事の分析と解釈と日本人としての感想です。読んで至った順序ではなく、至った結論から述べます。これはこの記事の筆者のいふ通りに：

- 1。このBlack Lives Matterの起こした大騒擾は文明の戦争である。（1）文明内部でか（2）文明の間でのか、いずれにせよ。
- 2。これは、単なる一過性の騒擾ではなく、内乱であつて、次の様相を呈してゐる：
 - （1）表層は、人種差別否定の反抗的なデモと反乱である。しかし、
 - （2）深層は、マルクス主義による心理学を応用した扇動である。といふことは、依然としてアメリカのフランクフルト学派の人間たちが関与してゐるといふこと。記事に文字にならなくても構造的な枠組みとしてそうだといふこと。といふことは具体的なハーバード大学と何がし大学とかの教授職のインテリたち（本当は陰照りと書きたい）が関与してゐるといふこと。これは中国共産党のスパイ・工作員と工作の摘発（今や10時間に一件の摘発頻度と速度と報ぜられてゐる）といふ共産主義の浸透に対応してゐる裏表の大きな騒擾、即ち内乱であるといふことになる。
- 3。マルクス主義に関係して、筆者の分析の正しいことは、その個人は他人・他者の同意がなければ、個人が存在しないといふマルクス主義・通俗マルクス主義・共産主義の指摘をしてゐることである。この指摘は正しい。私たちも日本の子供たちと若者たちをこの悪害から守らねばならないが、私たちは何をなすべきか。

この個人によって立つ根拠を無化する理屈は、アメリカの大学で共産主義の教師が講壇に立って教えてゐる同じセリフを口にしてゐる動画を見たことがあるので、別に有名大学でなくとも蔓延してゐるのだと思ふ。恒常的な講義ではなく、定例的であるのかも知れないが一時的な何々講座といふやうな講義で講師曰く、皆が同意をして初めて君の知つた事見たことは客観的なものになるのだといふのが私の見た動画の教師のセリフでした。ところが学生たちがこれに賛意を評したり、なるほどといふ相槌を打つ声が学生席の方から聞こえるのだ。アメリカの救いやうのない授業と大学である。これを救ふためにトランプが大統領になつたといふアメリカの国情はよく理解が、事態がここまで世界的に同時進行でや

つて来ると、できます。ネット・メディアがなければ、マス・メディアの捏造報道で事態はもつと悪化してゐただらう。

4. この記事にはイギリスの例も挙げられてゐて、これもアメリカの都市の例と同列に論じて良いと思ふが、文明即ちcivilizationのcivilの市民を守る術がないと政治家自身が思つてゐる。これが問題。日本も同様ではないのか？国益を守る術を保守も左翼政党も、即ち右であれ左であれ政治家として手をこまねいてゐて施す術なく、頭が回らないといふのがイギリスの現状とは私も知って驚きである。即ちイギリスの政治家がUnconscious biasなどといふ心理学用語を口にすることが既に間違いである。共産主義用語を使って自国の政治家として正しい民主主義に基づく政治ができるわけがないので、既にこの用語（心理学的マルクス主義用語）を使ってインタビューに回答してゐる時点で左右を問わぬ政治家の敗北である。日本の政治家も同様ではないのか？例えば天皇制といふ用語がさうであるやうに。

5. Civilizationの都市の担い手である中産階級・市民の安全を守ることができないといふ現実の、これは報告である。といふことはキャツラ欧米のいふ近代欧米文明の崩壊に立ち会つてゐることに、日本人から見ると（人ごとではないが）なる。これを徹底的に否定して見せたトランプは見事な就任演説をした。開拓者魂を思ひ出せと言つた。日本の総理大臣に私は同じことを要求する。

6. 結局、これは安部公房の読者としては都市の問題なのだ。文明の問題とは都市の問題なのだ。それでは農村は？多分このやうな内乱は起きてゐないのではないか？アメリカ大陸の東と西に都市が集中してゐて、その間は広大なド田舎であるといふ地勢図を、私たち日本人は思ひ描いておくと全体を見失ふことがないと思ふ。マス・メディアは常に誇張をし、事実を歪曲（deform：デフォルメ）する。

7. Mountain Rushmoreの建国の父祖たちの顔の前で行つたトランプの演説は、アメリカの独立とアメリカの伝統的な文化を絶対的に主張してゐるもので、これは正しい。大統領の使命はアメリカといふ国を守護することだからである。これは文化の問題であるといふ主張は正しい。これを守る断然たる決意表明を、NYT, Washington Times, LA Times, WSJが皆同じ論調で共通して認めて賛意を表明してゐる。といふことは、これを契機にトランプは11月の選挙に大いに優勢に勝利するといふことを意味してゐると私には見える。この極左の人間たちを徹底的に殲滅するといふトランプの発言は正しい。これを日本でいふと右翼となる日本の方がおかしい。日本の自称他称保守人間たちのゐる座標は、軸が相当ズレてブレてゐることに気付いてゐないのが哀れである。と、最近も何かの動画を視聴してゐてさう思った。保守の規準・規矩・クライテリアがないのである。生活の実感として自覚してゐてそこから言葉が発せられてゐないのだ。最初から敗北してゐる。さう、上記のどこかに書いたイギリスの保守・左翼両方の政治家と同じ状態である。これほどチャイナの疫病とファーウェイでひどい目にあつてゐながら、まだ目が覚めない大英帝国であるか。ドイツも同類同様であるか。日本は同類である。

8. この内乱は文明の戦争であり、且つキリスト教とマルクス主義の戦争であることが、この内乱で明らかになつたことが、私たち異教徒にはありがたいことである。大東亜戦争

も実はさうであつたが、同じことが今アメリカで起きてゐて、今度は日本への波及を私たちは防がなければ（事前に予防策を講じておくことだ）ならないといふ教訓を教えてください。同じ間違いを二度おかしたら、日本人は馬鹿であり、日本の政治家は馬鹿であり、日本の国は馬鹿である。この頃馬鹿といふ言葉が使いたくなるのであるが、馬さん鹿さんに申し訳ないので、パカと呼ぶことにしてゐる。お前えらパカか？

9。結局、トランプのMount Rushmoreの演説を読んで知ったことは、このマルクス主義による反乱・国家破壊の問題は、各国国家単位で個別の国制と国情に応じてそれぞれが解決すべきことであるといふことだ。これは私の考へにも一致して、当たり前といへば当たり前だが、これを常識とする与党の政治家が日本に何人ゐるものかを私は疑ふ。ことに、昼間、あの猿面漢事長のニュースでのインタビューに対する答えを聞くと、中国共産党の手先であること明明白白である。市中引き廻して獄門を命ずべき悪徳政治家である。これが与党の幹事長であるとは。動画での記者の質問は与党内での習近平の国賓来日反対部会決議についてのものであつたが、其の答へは組織が減じる時の姿で、全く危機感がないし、歴史観の欠片（かけら）もない。言葉が空疎である。余談ながら、あの無表情で笑ひのない官房長官は、その表情から名付けて能面苦楽面（ノーメンクラトゥーラ）漢房長官と私は呼んでゐる。

以下、メモから起こして順序がバラバラであるが、続けると、

10。黒人が白人を殺して、その数が多いといふことの実を報道で正しく伝達できなければ、そのメデイはもはやメデイア（媒体・媒介者）の役目を果たしてゐない。瘦せても枯れても上記のアメリカの新聞紙媒体はまだゾンビはゾンビでも生きてゐるゾンビであるやうだ。日本のマスメディアとは異なつて。

11。トランプのこれらの暴動と内乱の人間たちの総体を英国人の筆者が「極左ファシズム」と呼んだ命名は正しい。日本のお笑ひ国会議事堂の中の自称政治家の何人がこの言葉を口にできるか。たとえば、あの愛知トリエンナーレでの催事、昭和天皇の写真を焼いて灰にしてそれを靴で踏みこむといふやうな映像が文化か？といふよりも、これを「極左ファシズム」と呼んで、徹底的な殲滅作戦を展開するのが保守の政治家ではないのか？勿論行政官僚についてはいふまでもない。自称保守人間の軸が大きくズレてゐることに、ああ哀れなり、無自覚なのだ。

以上、一通り感想まで。

追伸1：

何故こんなBlack Lives Matterなどといふ聞き慣れない言葉をアメリカの極左集団は使つてゐるのかと思ひ、調べてみると、物理学のここ20年来の流行の物理学にActive Matter Physicsといふ物理学で、均衡を破ること、破れに関する物理学が生まれて流行つてゐることを知りました。

このWikiの写真でわかる通り、鳥や魚の群れの、此の群れの集合に原理的な物理的規則はあるかを究明する物理学です。数学は統計学を使っている。これは生物を唯物論で理解しようといふ、これは学問とは呼べぬやうな似非科学である。生命を方程式で表す事ができたら、一神教の唯一絶対神が怒るであらう。：

(1) Wiki: https://en.wikipedia.org/wiki/Active_matter

(2) 統計学: <https://www.youtube.com/watch?v=YdfnI8XcRgg>

よりによつて東京大学の大学院の優秀な若者がこんな物理学を研究しているのをYouTubeの動画の一つを検索して見て知りました。恐ろしいのは、この若者たちは素直で優秀であつて知的好奇心が旺盛であり、若者らしい若者だと云ふ事です。若者が若者である事が問題になるやうな物理学とは一体何であらうかと思ふのであるが、要するに人文学に接した事がないのだと思はれる。もつと云へば、文学を知らない。本はたくさん読んでゐるが、文学の古典を知らない。知つてゐても、物理学と文学が分裂してゐる。我が国の素晴らしい教育制度である。

Matterといふと物理学では天体物理学にBlack Hole vs Dark Matterといふ対概念がありますが、このmatterといふ言葉は日本人には馴染みがない言葉です。事柄とか問題とか訳したりしてゐますが、文脈次第で日本語訳は幾らでも変わります。従来のdiscrimination (差別)といふ用語を捨てて(といふことはこれを種概念・下位概念にして)、matter (実質)を類概念・上位概念に仕立てたといふところに非常な戦略性を私は感じる。マルクス主義は時代の本質的な変化点に新しい用語を戦略的に導入したといふことです。

(3) Webster Online: <https://www.merriam-webster.com/dictionary/matter>

この辞書の定義を読むと、私の連想はやはり17世紀のヨーロッパに戻るのです。全域を巻き込んで疲弊した30年戦争の時代、ウエストファリア条約の生まれた世紀です。何故ならこのmatterといふ言葉はライプニッツのモノイド論の中核概念であるからです。ライプニッツはSubstanz (英語でsubstance) と汎神論的存在の中核概念を呼んでゐますが。そしてこれをGodだと説明してゐるのは明らかにバチカンから見れば異端であり、スピノザと同列ですが、本人は真剣にGodの存在証明だとおもつてゐるのはスピノザと同じです。何故ヨーロッパと話をするのにこの世紀に戻ることが大事だと私が繰り返しいふのも故なしとはしないのです。君の紹介してくれた記事にも17世紀と云ふ言葉がアメリカ人のくせにあつたのを思ひだして、今そこを引用すると次のやうに書いてある：

None of this is compatible with a free society. It is more redolent of totalitarianism under Stalin, Mao or in 17th century Salem. And so Britain currently has no political leader who will meet the epic challenge of defending western civilisation.

[拙訳]

このいづれもが [訳者：あなた個人の意見は他の人が認めなければ間違つてゐるといふ無意識のバイアスのこと。筆者は明確に「洗脳」と呼んでゐる]、自由な社会とは互換性がない。これはスターリン、毛沢東、またはヨーロッパ17世紀の魔女狩りの下での全体主義をもつと形を変へて（こつちの水は）甘いよと云ふ水に仕立てたものである。そして、このやうに、かくなる次第で、イギリスは現状、西側の文明と市民を防衛する叙事的挑戦 [訳者：英雄的挑戦] をするに見合ふだけの政治的指導者がゐないのだ。

この二行がまさしく現状をよく表現してゐるのではないか？如何か。

思へば、相対的なMatterはアインシュタインの相対性原理に20世紀初に、エネルギー論との関係で、始まってゐる。それが引き継がれて今のActive Matter Physicsに至つてゐるといふやうに言葉と言語の観点からはいふことができます。ActiveとはActivistのActiveです。まあ、この武漢ウイルスといはうか新型コロナといはふか、家に籠もつて閑暇あり、GAFの一角amazonにお世話になりながら、BBC制作のロンドン市察の連続TVドラマを見てゐても、activistといへば、それは過激な活動家といふ意味です。活動家では不十分で日本語ならば過激な実行活動家です。以前は活動家で十分に意を尽くし得てゐたが、世の中がこれほど物騒になると（仏法僧になつて欲しいものだが）活動家の前に更に過激なといふ形容詞をつけねば実感から離れる。ところで、余談だが、新型コロナをネットの動画であちらでもこちらでも連呼されてゐるのを聞くと、トヨタ自動車が中国共産党の意向を受けて、新型コロナといふ新車を発売するのかと勘違ひをしたが、これは私一人の愚かなる誤解であるのだろうか。ここまで行くと、トヨタはもはや日本の会社ではない。社旗を中国共産党の党旗に変へるのは旗幟鮮明で良き事である。

閑話休題。

うちみるところ、まだこの流行の物理学とBlack Lives Matterは結びついた勢力になつてゐない様子ですが、マルクス主義はダニのやうな組織ですから（中国共産党をみよ！君はダニが人間の肉に食い込んで尻を空気に出して動いてゐる様を見た事があるか？）、隙があれば食いついて大衆化のために心理的な扇動ができればこれを利用するでせう。この物理学もフロイトの精神分析学と同じ軌道を辿らぬやうに注意が必要です。つまり、アメリカ人の専門家は、国の成り立ちと其の国民性から、常に大衆化を図り、通俗化を図るものだからです。これを盲目的に国内に入れると大変なことになる。如何に子供と若者を此の毒害から守るかといふ叙事的・英雄的挑戦者たる政治家の登場を願ふ。

と、以上書いたものの、ネットで検索して次のやうな動画のための要約文を読むと要警戒（要注意ではない）、それこそJapan Alertを国内外に発するべきときであるのかも知れない。その蓋然性は高い：

<https://www.youtube.com/watch?v=-dq4fNBzmtU> :

In recent decades, developments in software and hardware technologies have created dramatic shifts in design, manufacturing and research. Software technologies have facilitated automated process and new solutions for complex problems. Computation has also become a platform for creativity through generative art and design. New hardware platforms and digital fabrication technologies have similarly transformed manufacturing, offering more efficient production and mass customization. Such advances have helped catalyzed the maker-movement, democratizing design and maker culture. This influx of new capabilities to design, compute and fabricate like never before, has sparked a renewed interest in material performance.

[拙訳]

この数十年といふもの、ソフトウェアとハードウェア技術の開発のおかげで、設計、製造および研究に於いて劇的な幾つもの転換が新たに起きた。ソフトウェア技術は、複雑に一体となつてゐる対象に対して、自動化されたプロセスと新しい解決法の実現を促したのである。そして、コンピュータもまた、生殖力のある（といふ意味では）藝術級の技術と設計を通じて創造性を生み出すためのプラットフォームになつた。新しいハードウェア・プラットフォームとデジタルな組み立て技術は製造を変形させて、もつと効率的な生産および量的に顧客要求を満たして個別製造するといふサービスを提供するやうになつた。このやうな進歩が、製造者の運動を触媒作用で変形させ、設計と製造者の文化を民主化したのである。新しい、設計・コンピュータ利用・組み立て能力の此の到来は嘗てないものであり、材料を使つての物理的な性能に関する全く新しい興味の火花を散らす事態を招来したのである。

即ち、僕のいふ論理層から忍び入って物理層に降りてくる蓋然性(probability ; possibility・可能性ではない)が、このBLMの黒幕は、高いといふことです。

この物理学は群をなすそれぞれの個体をagent（代理人）と呼んでみて、その集合を複数形で表現してゐるといふところが、既に黒幕・マルクス主義の戦略に大いに適つてゐるといふべきではないか？即ち、何故Black Lives Mattersと複数形でMatterを呼ばずに、Black Livesの方を複数形にしてをいてMatterを単数形の、従ひ一種の抽象的な集合名詞にして意識して命名してゐるかをJapan Alert（日本国民は要警戒警報）といふことです。

追伸2：Black Lives Matterとは何かに関する安部公房の答へ

これは既に安部公房のインタビュー・評論集『死に急ぐ鯨たち』で、この作家が、その心

理を解析してゐます。これは1985年前後のおこなはれた1986年までのインタビューと批評を集めたもの。貴君のいふ日本の幻の黄金時代1980年代のど真ん中です。同じ問題が既に日本で起きてゐたのではないかと思つて貴君の本を開いてみると、第六章「八〇年代後半の日本に空いた大きな穴」の「大きな穴」がBlack Hole (物理学) vs Dark Matter (人文学) です。あるひは、Black Hole (人文学) vs Dark Matter (物理学)。この章に納められた4つの節は、村上春樹のイスラエルでの授賞式で使つた「システム」とは何かといふ貴君の論題は今も尚論ぜらるべき題目であることを、Black Lives Matterは示してゐるといふことです。この国際的通俗流行作家はオウム真理教は調べて作品にしたが(小生未読未見)、アメリカはシアトル市での此の暴動による自治区と反乱者の自称する区域の取材をする意志は萎えて立たないだらう。何故ならトランプがアメリカの大統領になつてゐるからである。

追伸3：二つのみ追加します。

1。Active Matter Physicsといふ物理学

Active Matter Physicsは、その物理学の対象がいきた魚や鳥の一体となつた意思疎通(コミュニケーション)による集団の一体化を対象としてゐるといふ理由から、これはこのまま環境問題を先鋭化して来た極左政治勢力と結びついて(もう結びついてゐるかもしれないが)エコロジーと一緒に、政治的勢力になる恐れがある。大体生物のこの動きを物理学の対象にするといふ発想が唯物論である。心理学では飽き足らずか、あるひはうまく行かなかつたので、今度は物理学で侵略を図らうといふことである。もし結びついてゐたら。

極左勢力とはドイツならば緑の党とメルケル率いるCDU(メルケルがバイエルン州の保守党の党首といふのが異常なドイツの国である)、アメリカならば民主党、日本ならば自民党の反日勢力(自民党に極左共産主義者が巣食つてゐるといふこれも異常な日本の国である)と野党勢力、中国ならば中国共産党といふことになる。

2。Black Lives MatterのMatterを動詞と解する場合の解釈

私はmatterを名詞として理解して解釈をしたが、もしこれが動詞であるならば、これはこれでも良い。解釈の実際は同じで変更はないが、もし動詞であるならば、blackなものの命ならばなんでもかんでもといふことになつて、味噌も糞も猫も杓子も俺は/私はblackだと言つて、それにあの企業も此の企業も、この色の隠喩としての外延を主張して適用すれば、どれもこれもBlack Lives Matterになるといふ、これも恐れがある。たとへば、動物愛護の極左イデオロギーと結びつくといふ恐れがあります。ましてや人間に於いてをや。即ち、

Blackに被害者意識が結びついて、全部原因は外部にあると主張するとマルクス主義にな

るといふことです。この根はエホバといふ唯一絶対神を無視して忘れて生きようとして来た欧米白人種キリスト教徒全体について当てはまる。マルクス主義の根は深いよ。単にソ連が崩壊しただけで終はらなかつたのは、この宗教と個人の救済の問題をキャツラは解決できないできたからです。政治と宗教は分離できないのが欧米です。日本は如何か。神道はキャツラのいふ宗教ではないといふなら神道の概念を明らかにして、その概念を定義しなければならない。即ちさうすれば神道の分類ができることになる。さうしないと新種のマルクス主義（新型コロナ・マルクス主義）に勝てない。神道といふ概念を明らかにして定義すること（分類すること）が、対抗する免疫をつくる精神武装のワクチンだといふことです。神道家にこれができるかどうか、その具体的な努力ができるか、できて実を結ぶかが、日本の国の生き死にを決める。日本人に被害者意識を浸透させ、この意識を植え付けようといふのがマルクス主義者たち極左から左翼から野党から反日外国勢力の目的であつたことがよくわかる。となれば、ここまで解れば、具体的な政策と対抗策としての施策があるだらう。ここから先は、また長くなるので、これまで。

要するに、今の日本の国家は全然当てにならないので、そんなものはあてにせず、自分の身は自分で守るといふことです。ところで、最近僕はスタンガンを購入したといふことは、君に言つたつけ？驚くべし、アマゾンに売つてゐる。

ネット・メディア論 (10)

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
 - 3.1 マス・メディアとは何か (20世紀)
 - 3.2 ネット・メディアとは何か (21世紀)
- 4. ネット・モノダ論
- 5. 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
 - 6.1 ネット・メディアの問題を二階層戦争論で考察する
 - 6.2 ネット・ヘゲモニー問題とは何か
 - 6.3 二階層戦争論による解決策
 - 6.4 空気とは何か
 - 6.4.1 空気の定義
 - 6.4.2 オロチXの定義
 - 6.4.3 同調圧力とconformityと空気の関係
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとf
 - 7.3 公私の最小単位再説
 - 7.4 政治形態E&Aの公私：一神教のtopologyの政
 - 7.5 政治形態Jの公私：高天原のtopology (超越論
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休 (令和時代の人間像)

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章



6.4.3 同調圧力とconformityと空気の関係

縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く (9)

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

- (1) 言葉と概念と文字の関係
- (2) 音義と日本語の概念の関係
- (3) 漢字とひらかな・カタカナの関係
- (4) 音義と五十音表の関係
- (5) 有文字文明と無文字文明

Intermezzo: 何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかいないのか?

2. 日本語の音義と概念の関係: 五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2: 海風之大刀 (アマナギ・ノ・タチ) は一体どんな姿をしてみるか

5.9 日本位相習合史

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.10.1 紫式部の超越論『源氏物語』

5.10.2 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてるか

5.10.3 ダイダラボッチと巨人伝説: 大倭日高見国と播磨国: 房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.10.4 日本人はどこから来たか

II Topologyで縄文土器を読み解く

0. 縄文土器の本当の名前は何か

1. 紋様とは何か

2. 縄文土器の構成要素

3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる

4. 縄文土器は三階層で出来てゐる

5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある

6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる

7. メディア (媒体) としての縄文土器

8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる

9. メディア (媒体) としての弥生式土器

10. 縄文土器と弥生式土器の関係 (topologicalな連続性): 3 (奇数) から 2 (偶数) へ

11. 銅鐸は7階層で出来てゐる

12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治: 土器と政治の一体と分離: 銅鐸とは何か1

13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済: 土器と経済の一体と分離: 銅鐸とは何か2

IV 21世紀の現代に縄文土器はどのように生きてゐるか

VII 20世紀の幕を閉ぢ、21世紀に生きるための結語

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

ここまで縄文紀元を論じて来て知ったことを、掲題に関して述べると次のような論の次第になります。

古事記は神話学のいふ実は「神話」ではない。人間が国を建てる時には必ず必要とする事実を書いたのである。これは言語的事実です。言語的事実とは、事実を言語の力を借りて普遍化した物・事のことである。さうしなければどんな国も建国することはできない。これをもしヨーロッパの近代の学問としてある神話学のいふやうに/な「神話」だとしたら、神話とは常に其のやうに生まれて、即ち事実として在る国と一緒に生まれた事実を民族の言葉で叙述したものであるといふことであり、これを象徴と解しようが事実の反映と解しようが何と解しようが、其のやうな理解のできるといふ事実、またさうしようと努力しなければ理解ができないといふ今を生きる人間の現実的な事実が、以上冒頭の一行のことの次第を明らかに示してゐるのです。

だから神話は「神話」ではない。

これは古事記を以て論証したことで既述の通りにあなたに知られるに至つたやうに、この言語的事実は、即ち言語構造其のもの通りに、其のやうな、歴史的では決してなく正反対に時間を捨象した宇宙構造的な二重の姿を写してゐる。一つは其の民族の言語観を、もう一つは其の民族の宇宙観を。それはこれが、人間と神と言語の関係であり、言語は透明なる表現手段即ち媒体（メディア）として常に背景に隠れてゐるので、端的には人間と神の関係が描かれてゐるのである。これが神話といふ事実に書かれてゐる物・事・人、そして民族固有の言語の関係の姿である。この関係の中に人間はまた生きてゐるので、そのやうな人間は、建国に際しては、往々にしてカミと（日本語では）呼ばれる。諸外国には諸外国の単数または複数の神があるだらう。神々の存在こそが、建国の標識であり指標であるのだ。即ち神々の超越論的な顕現こそが、実はそのまま国家の誕生なのである。国家と神々の関係は、従ひ、言語再帰的である。即ち神話と国家と民は二重写しになつてゐるのです。あの一神教のユダヤ教の神ですらさうである。即ち一度は初回の天地創造と人間の男女一對の創造の時に、二つ目はシナイ山の山上でモーゼに言語再帰的な自分の存在をモーゼに伝える時に〔註1〕。まして況んや、汎神論的な神々の世界、否、神々の世界であるが故に汎神論的である二重写しの国家と神々の宇宙世界を有する即ち超越論的な汎神論の世界に於いてをや。従ひ古事記の宇宙観と日本語の言語宇宙の二重性は日本に特殊なものではなく、また特殊であるが故に、普遍性を備へてゐるのです。

〔註1〕

エホバといふ唯一絶対神とモーゼのシナイ山上での対話を以下に『安部公房とチョムスキー（6）』（もぐら通信第78号）の「4.1 持つ冗長性とは何か」より引用してあなたの理解に供します。訳は、ルターのドイツ語訳聖書からの拙訳：

「9. さてかうして、イスラエルの子供達の叫び声が私の所にまでやつて来るので、そして、おまけにエジプト人たちが子供達を不安にさせると子供達の不安を目の当たりにするので、10. 行け、お前をファラオに送らう。我が民族、イスラエルの子供達をエジプトから連れ出さない。

11. モーゼはGodに言つた：ファラオの所に行き、イスラエルの子供達をエジプトから連れ出す此のわたくし

とは一体誰なのでせうか？ 12. Godは言つた：私はお前と一緒にゐる。そして、これが、私がお前を遣はしたといふことの、**お前の印である**：我が民をエジプトから連れ出したならば、お前達は、Godに生贄を捧げなさい、この山の上で。

13. モーゼはGodに言つた：もし私がイスラエルの子供達のところに行き、かう話をする：お前達のGodが私を遣はしたのだ、とすると子供達は私にいふことになる：**Godの名前はなんといふのか？**と、さうすると私はなんと子供達に言へば良いのですか？

14. Godはモーゼに言つた：**私だ、（今もこれから）私である私だ。**と言ひなさい。そして言つた：さうであれば、お前はイスラエルの子供達に：**（今もこれから）私であること（である私）**が、私をお前達のところに遣はしたのだ、と。」

これは文字「以前」の無文字文明の世界にも通用することであることには、あなたも首肯することができるでせう。何故なら文字は音義を視覚的に纏（まと）まりある線で表したものであるからです。とすれば、音義・音声の世界でこれがなされた時に国家が誕生したのであり、これは文字になるやうなものではないほどに太古である。即ち、神話こそが其の民族の建国の見事な証明なのです。日本ならば縄文土器の由来に遡つて建国の証明できる1万6000年前に建国されたと言つてよく、この土器の存在が国家の証明なのです。この太古の、東日本にある国の名前は、大祓（おほはらへ）第二段落によれば大倭日高見国（おほやまとひたみこく）といふ名前です。何故和ではなく倭の文字を採用して祓ひとしたかについても日本語といふ玉の緒（トポロジー）言語の原理によつて、即ち此の大祓が生まれて文字に定着するにあつて既に西半分にもう一つの国があり（これが大和の国、にほん語で読めば同じくオホヤマト）、その国名である西のヤマトに対して一步を敢へて譲り、二義的な存在として月のやうに隠れて独神の如くに存在することで存在してゐる国といふ心が此の大倭の倭の文字の選択に現れてゐます。これが、言語から観た、論理的な事実です。他方、この物理的事実は縄文土器が証明してゐる。（ところで、縄文土器の本当の名前は一体何といふのでせうか？）また此の大和と大倭の読みと文字による漢字表記の関係は、片仮名と平仮名のいづれもヒラ・かなであるといふ同義等価交換関係にあるといふのに同じで、大和の大をオホとは呼ばずに唯ヤマトと呼び、大倭を倭の文字に当てて其の前にオホ（大）といふ大祓の格を国家格として示したといふこと、このtopologicalな・玉の緒の均衡（バランス）感覚と論理が日本語・日本民族の身上なのです。これを現今は通俗的におもてなしとか、和のこころなどといつてゐるのを聞く事がある。

そして、このことの一層の具体的な、そして現代的な証明のために、どの言語によるのであれこれら言語・神・人間の三者を含み、そこから生まれる言語宇宙であると云ふ其のやうな事情から一つの宇宙として人間によつて叙述されて存在してゐる宇宙を表してゐる建国の書物の名前を、文字の書かれてゐる素材を問はずに名前を挙げてみよう。曰く古事記、曰くタナハ（旧約聖書）、曰くシンガポールの海辺に立つシンガポールの建国碑、曰くアメリカ合衆国の独立宣言（隠然として宣言の背景と土台であるのはキリスト教の聖書）、曰く曰く曰く……。以上の考へから観れば、皆同じでことはないか。

結局、私の其処に立つて読んだシンガポールの建国の碑文が現代的に示してゐるやうに〔註2〕、国家の権威と権力即ち国家建国の由来の正統性は、国家の新旧を問はず、常に超越論的な事実を拠つてゐるのです。ことごとくまで知るに至つたからには、言葉を替へてかう言はう、神話こそが、国家建国の由来の正統性は超越論的な事実を拠つて明らかにされてゐるのだ。特殊な歴史観を主張し、この歴史の見方（観といふ文字を使ふことはできないほど）の暴力的な

敷衍を押し進めながら最も拙劣最悪に此の事実を、それも歴史的事実として私たちに示してくれてゐるのが、マルクス主義に始まる共産主義であり、その歴史である。マルクス主義の歴史は反対証明の歴史である。何故、これら共産主義者は歴史の捏造を必要とし、国家建国に際して常に偽物の「神話」を必要とするかを考へてみると良い。それなら、国家の由緒・由来・縁起すらまでも否定しようといふのがグローバリズムと呼ばれるまでに進化・進歩した国際金融資本主義の共産主義である（これをこそリヴァイアサンといふべきではなかつたのか、ホップズさん）、といふことになる。以上のことからお判りの通り、グローバリズムとは、その民族の言語・神・人の関係を、即ち此の三者よりなる世界中の国家の由緒・由来・縁起と現に今ある国家そのものを破壊するものである。そして、今21世紀に此の破壊に最も苦しんでゐる国が、アメリカ合衆国である。日本もまた例外ではない。ヨーロッパ地域諸国も例外ではない。アフリカ大陸諸国も中近東諸国もユーラシア大陸諸国（中原の地を古代より争ふ支那地域を含む）も然り、例外ではない。それにアメリカ合衆国以外の南北アメリカ大陸諸国もまた同様同然である。

[註2]

私がシンガポールの海岸に立つマーライオンの像の側に読んだ碑文に刻まれてゐた建国の詩文は次の国の建国の由来または誕生の由来を詠んだものであつたのでせう。英文の詩としては稚拙で、詩人の書いたものとは思はれなかつた。

「11世紀にマレーシアの王族が対岸に見える大地を目指して航海の旅に出た際、途中で海が激しく荒れ、王族が被っている王冠を海に投げたところ、海は静まり無事にその大地にたどり着くことができた。その時、ライオンが現れて、王族にその大地を治める事を許して立ち去った。マーライオンの頭部はこのときのライオンを表している。

また魚の尾は、古代都市テマセック（ジャワ語で「海」）を象徴している。王族は、その大地を「ライオン(Singa)の都市(Pura)」を意味する「Singapura(シンガプーラ)」と名づけ、マーライオンを国の守り神として祭つたという伝説がある。セントーサ島にある「マーライオンタワー」では、このマーライオン誕生の歴史について映像形式で見ることが出来る。」 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/マーライオン>)

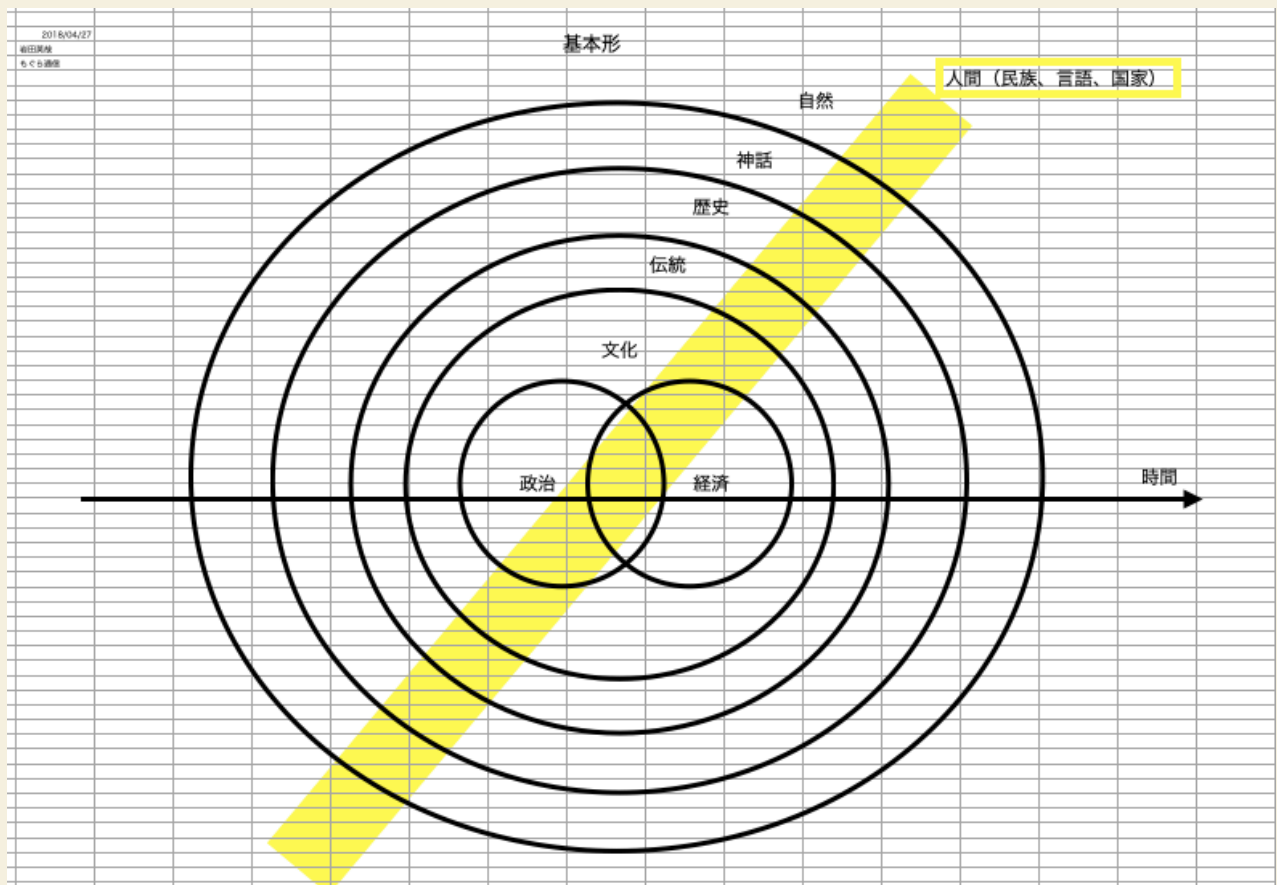
やれやれ、何といふことだ。平安時代に京の都の宮中が世の中と呼ばれてゐた其の世の中が、地球の上の世の中にまで概念が拡張されるとは、さすがの紫式部も思はぬことであらう。しかし、トコ・ヨ（常世）などといふヨの中を思つて生きてゐた狭義の縄文人である東日本の日本人が、この今の世の中を見たら一体どう思ふものかと想像することは楽しいことである。

さて、このやうな次第で、現下の急に徴して考へれば、グローバリズムといふ名の金融資本・共産主義（中国共産党を見よ）は、この言語・神・人間の関係を破壊するといふことが[註3]、言語の観点からお判り戴けたことと思ふ。即ち私たち日本の国にあつては、日本語・天地（あめつち）八百万の神々・日本人の文化[註4]が破壊されつつ既にあり、日本の国家が、即ち私たちの水や空気のやうにしてある日常の生活が危殆に瀕してゐるといふことがわかります。人間とは勿論日本人のことであり、日本民族の

ことです。ここまで考察して来ると、民族といふ概念が非常によく判ります。以下、民族の定義です。これは世界普遍性があると私は思ふが如何。

[註3]

この破壊がどのような順序で行はれることを企図して行はれるのかの次第は「政治と経済の内部から外部の自然まで」の円盤図（もぐら通信第82号）で示した通りです。政治・経済と文化の範疇を意図的に悪意を以て混同し/させることによつて文化を破壊し、以下伝統・歴史・神話を破壊し、最後にはこれらの根元・根源に/である自然を破壊しようとしてゐることが一目瞭然です。



[註4]

「文化の定義

文化とは、言葉を正しく使ふことである。

(『ネット・メディア論』もぐら通信第105号) 」

従ひ、日本の文化の定義は、

日本の文化の定義

日本の文化とは、日本語といふ言葉を正しく使ふことである。

さて、民族の定義です。

民族の定義

民族とは、言語・単数の神または複数の神々・その人間の在り方（文化）を建国以来共有してゐる人間の、歴史を超えた集合である。

[補足説明]

シンガポールのやうに人工国家は、様々な人間が後からやつて来ても、あの海岸に立つ石碑の建国の由来を、言葉は悪いが嘘でもいいから信じて共有するならば、そして其の国家の象徴に忠誠を誓ふのであれば、外国人であつても自国民だといふことになる。此のやうな国家の場合には、民族よりも国家が優先することは、人工国家であれば致し方がない。といふことは、アメリカ合衆国もシンガポールと同様の人工国家でありますから、この考へ方で此の国を理解することが、私たち日本民族は、できます。即ち、

日本民族の定義

日本民族とは、日本語・天地（あめつち）八百万の神々・日本人の文化を大切に共有する人間の集合である。このやうに集合し習合する国家を日本の国といふ。

さうすると日本の国のやうな、様々な意味でかう呼び得る自然国家に対して、人工国家または人造国家の定義を次のやうにすることができます。

人工国家の定義（人造国家の定義）

人工国家とは、言語・神・人間の関係より生まれる/た文化よりも、神話と歴史を欠いた国家を優先させて成り立つ突然の、従ひ歴史の欠落した国である。この人工国家には、いふまでもなく共産主義国家が含まれる。

[補足説明]

しかし国家を名乗るのであれば、必ず建国は神々を必要とするので、片や宗教が、片やイデオロギーといふ狂信的な主義が擬似宗教（カルト）になるまでに、それぞれに必要とされることは、これも歴史の必然であつたことが21世紀の今になるとよく解ります。この二つの国家の両極端なるものが、片やアメリカ合衆国、片やソヴィエト連邦や現下の中国共産党にみる共産主義国家である。両極端は相似たりといふ。前者は本物の宗教国家、後者は偽物の宗教即ちイデオロギー国家である。現下の戦争が宗教戦争であるとは、本物の宗教（キリスト教）と偽物の宗教（マルクス主義・中華主義）の戦争であるといふことが、かく考へれば、よく解ります。

さて、成熟した資本主義の存在には、必ずしも欧米歴史的な民主主義を必要としないといふことが、私たちの「日本位相習合史」〔註5〕により明らかですから、この日本民族の定義の上に別格の、即ち欧米の民主主義を一次元上に格上げした民主主義を生み出すことができます。この場合、この政治制度と此れを成り立たしめてゐる政治形態の名前は民主

主義といふ名前ではなくなることは、言語論理から云つて必定。やまとことばで雅やかに命名することがよからむ。そして、日本語の言語論理が本居宣長の玉の緒論である以上、この接続（緒）と変形（玉）のトポロジー言語の意味形態の上に日本の国の政治形態は成り立つこととなります。これは別途稿を改め『ネット・メディア論』で論じます。しかし、いづれにせよ、日本人固有の政治学または経済学は次のやうなものになる。『安部公房とチョムスキー（8）』（もぐら通信第81号）の「7。一神教と大地母神崇拜をtoplogyで読み解く」の「D地1」より引用します。

「(c) この、国に対して顔と胴といふやうな人の体の部分の名前を名付けるといふことは、大地母神崇拜の論理と感情を表してゐるのではないだらうか。何故ならば、ずっと時代を下つた西暦500年前の古代ギリシャの多神教の世界に生きるソクラテスが、プラトンの『国家篇』の中で国家とは何かを対話しながら最後に、何故国のことを人間の体の隠喩を用ゐて考へるとこんなに上手に国といふものを論じ理解することができるのだらうかと感嘆してゐるからです。自然といふものを顧慮せずに論ぜられる近代ヨーロッパの近代国家に関する政治学は、どこかに致命的な欠陥を抱へてゐると思はれる。何故ならば、その政治学は自然のことを放つてをいて、人間と法律ばかりを論ずるものではないかと思はれるからです。政治の外部は自然だといふことを前提にして考へられるのが、21世紀の超越論に基づく政治学であり政治論であるといふこととなります。経済についても同様です。」

[註5]

「日本位相習合史」については『縄文紀元論（8）』（もぐら通信第117号）の「5.9 日本位相習合史」を参照下さい。

なかなか平安時代の美しき「蟲めづる姫君」には辿り着きませぬが、今回は、

5.1.1 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1.2 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

(以下次号に続く)

Topologyで日本の文化を解説する
「内なる境界」シリーズ
(10)
扇

岩田英哉



連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～*
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライブニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉册伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解読する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエイター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
 - ①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
 - ②安部公房とライブニッツ：汎神論的存在論
 - ③安部公房とジャック・デリダ：郵便的 (postal) 意思疎通と差異
 - ④安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
 - ⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人 (strangers in the night)
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》 〈 〉 () [] 「 」 『 』 「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公部安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと産霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をほらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（ほらひことば）をtopologyで読み解く：
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

- 巻頭詩（6）：万葉集巻一・二十八：持統天皇：この御製は、本当にいい。女性でありながら実に雄勁な感じのする歌です。
- 全集未収録作品：シナリオ『億萬長者』生原稿 分載（4/4）映画評論1954.8月号：安部公房他：今回は最後です。
- 『周辺飛行』論（29）：3。『周辺飛行』について（21）：「鰐魚」改訂版——周辺飛行26」：安部公房スタジオの意図がいよいよ鮮明に。こんな原理的な、形而上学的な舞台は、普通戯曲家は描かないし、書けないのではないか。アメリカで評判を博したのと云ふ事実は興味深い。ヨーロッパでやつたらまた大きな評判をとつたこととせう。そしてアメリカとは全く異なる批評が聞けたのに、これが文字にないことは誠に残念。
- 山本健吉の安部公房作品論～『壁』から『燃えつきた地図』まで～：やはり古典を読む人間の批評はどの作家この作家のあの作品この作品も肯綮に当たつてゐる。同時代の作家も、あれ倉橋由美子はここでデビューしたのかなど新発見も幾つかありました。
- 『砂漠の思想』を読む（5）：裁かれる記録係：これも、安部公房の藝術理論が意図がいよいよ鮮明になりました。読んでよかつた砂漠の思想。このあと残るは東欧の紀行文、内なる辺境、笑う月、です。
- 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（1）：塔の文学：森鷗外の塔と夏目漱石の塔：塔を縦糸にして近代日本文学を論じてみようかと云ふ試み。綱渡りが向かう岸にできたら拍手ご喝采。
- サンチョ・パンサを求めて（10）：Black Lives Matterとは何か：敵も猿もの引つ搔くものである。また血みどろの戦ひが始まるのか。今度は最終戦争だけ。
- ネット・メディア論（10）：6.4.3 同調圧力とconformityと空気の関係：待て次号：これを書くと定量を超えて誤植が多くなるので自制しました。待て次号。
- 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（9）：5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか：これで国家（すべての国家）と神々の世界の二重写しのトポロジーの説明が完成しました。トポロジーですからどの国どの神話とは問ひません。日本語の宇宙観と古事記の宇宙観のやりとりが、日本語を話して生きる実は私たちの日常生活です。即ち私たちは各自神々と二重写しになつてゐる。
- Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境」シリーズ（10）：扇～性と古代信仰～：これも、書くと定量を超えて誤植が多くなるので自制しました。待て次号。
- では、次号にて、

差出人：

廣安部公房

〒182-0003東京都調布

市若葉町「閉ざされた無
限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

1. 『周辺飛行』論（31）
2. 縄文紀元論（10）
3. 私の本棚：西尾幹二著『あなたは自由か』を読む～自由と奴隷について～
4. 哲学の問題101（11）：愛（Liebe：リーベ）
5. 大久保房雄を読む（1）：文壇とは何であつたか
6. サンチョ・パンサを求めて（11）：ドーナツの穴になつた話

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集者自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

